



自  
第  
十  
三  
章

ト  
マ  
ス  
ダ  
ブ  
ル  
デ  
ー  
財  
源





414  
A1436  
5



史

第十二章

ル氏ノ通貨條例政策ノ不當○正貨拂ノ利率ヲ  
 論シ「ナールニ」氏ニ贈レル「コバツ」氏ノ書狀○右  
 議案議決ノ成果ニ付テ「コバツ」氏ノ前言○一般ニ  
 其前言ノ警咄ス○右議案議決ノ成果○犯罪人ノ増  
 加○紙幣質造人ノ處刑○「マンチエスマ」ニ於ケル  
 慘狀○六條例○政府益理財ノ困難ニ逼マレ○理財  
 困難回復ノ政畧○其失敗○「ゴロ」氏初テ  
 貯蓄銀行ヲ創成ス○同氏ノ目的○右政畧不正○右  
 政畧外面ノ好結果○貯蓄銀行設立ノ為、隠然國債  
 増加○互相格○其理由○航海條例ノ廢止○  
 運漕船航路ノ比較ヲ○普國ノ同盟○外人英國ノ衰

峯 源次郎譯

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈



状ヲ蔡ス○「アングレム」候西班牙ニ侵入ス○其影  
響歐洲全土ニ及ク○英國銀行其流通紙幣及割引ヲ  
減ス○物價ノ急下落及ヒ右ニ由テ生スル困弊  
紙幣交換ノ紛議ヲ永絶センカ為メ上下兩院ノ議決ニ依  
一十八百十九年新ニ通貨交換條例ヲ制定シタリト雖  
凡敢テ議院外ノ人ノ憚ヒサル所タルヤ知ルヘキノミ故  
ニ全國ニ通シテ論者往々其政畧ヲ誹議シ其不心ヲ慍思  
セリ就中卓見高識ノ老成家ノ集合シタル一大黨アリシ  
由具袖領ナル「ゴバット」氏ノ如キハ新條例ノ制定ヲ聞ヤ  
否ヤ直ニ時務論ト題シタル一書ヲ著述シ口ヲ極テ此條  
條例ノ決シテ奉行スヘカラサル理由ト之レヲ舉行セハ  
將來弊害ニ堪ヘサル所以トテ痛論セリ是ヨリ先キ一千  
八百十八年中「チール」氏ナルモノ務テ英度ノ諸大臣

ヲ慍思シ以テ紙幣交換ヲ實試セシメントスルニ臨ミコ  
ベットレハ北米合衆國ノ「ロンドン」アイランドヨリ同年七月  
一日ニ一書ヲ「チール」氏ニ投寄レ痛ク其非計ヲ論シ  
預メ此ニ應スルノ豫策ヲ設ケスレテ卒然銀行ヲシテ紙  
幣交換ニ復セシムルヨリ發生スヘキ不測ノ弊害ヲ証明  
ス其文雄偉壯快人ヲシテ一誦三嘆セシムト云フ其略ニ  
曰ク今英國銀行ヲシテ金銀ヲ以テ其紙幣ニ交換セシメ  
ハ其紙幣流通高減少セサルヲ得ス銀行紙幣既ニ減少セ  
ハ社會ノ金融隨テ閉塞セン金融閉塞セハ物價自カラ低  
落セサルヲ得ス此際ニ當テ政府諸稅ヲ徵收セハ社會ノ  
景状必ラス衰頽セシ是ニ於テ予多ク物品ヲ貯藏セシモ  
多ク財貨ヲ保有セシモノ又々多ク家屋田宅ノ抵当ヲ  
差テシモノ悉ク零落破産セサルヲ得スト而シテ又々當



時此理由ヲ理會シ「コベツト」氏ト意見ヲ同フスル僅々ノ  
識者ハ經濟議員ノ口實トシテ主張スル地金ノ下落ハ唯  
メ英國ニ於テ古來未曾有ノ國步艱難ノ結果ニ外ナラサ  
ルヲ知り而シテ若シ曩ニ貿易權衡ノ我ニ利アリント人  
民竊ニ貨幣ヲ鑄解シタルトヨリ英國ニ於テ地金數年間  
無需用品タルニ至ラスンハ斯ク金塊ニ下落ヲ生シ從テ  
國策ノ政策ヲ惹起スルヲモアラサルヘキヲ痛歎シ又々  
今マ此上ニ減縮スルヲアラハ物價下落益々甚シク其下  
落ハ三分ニアラスシテ終ニ三割ニ至ラサルヲ得サルヲ  
論陳セリ

右預報<sup>先</sup>見タルヤ獨リ「チール」等之レヲ非トスルノ  
ミナラス傲慢ナル經濟家ハ之レヲ嘲笑シ輕躁ナル論者  
其駁撃論ヲ新聞雜誌ニ掲載シ之レヲ痴人ノ夢ヲ説クニ

比レ銀行ノ支配人ノ如キモ亦メ之レヲ以テ無警告説ト  
蔑視シ更ニ之レヲ顧ミス金銀地金ノ價直並價ニ起ユル  
ヲ顧ミスシテ巨額ノ貨幣ヲ發行セシカモ其發行貨幣ハ  
忍テ鑄解セラレ或ハ輸出セラレタリ此輩熱心ニ其持論  
ヲ主張シ遂ニ一千八百十九年下院ノ總同意ニ依テ「ベ  
ル」ノ議業議院ヲ經過シ後テ直チニ以テ國法トセリ抑モ  
此法ヲ制定シタルノ日滿院ノ人聲ヲ放テ稱賛セサルハ  
ナカリシニ特リ「コベツト」氏北米合衆國ニ在テ之レヲ新  
聞紙上ニ見ルヤ又々文ヲ作テ之レヲ駁撃セリ其文ニ言  
ハレアリ曰ク此ノ決議條例タルヤ猶ホ未メ全ク之レヲ  
實際ニ舉行シ終ラサルニ必ラス夥多ノ蒼生ヲシテ餓死  
セシメン乃チ此ノ法到底舉行シ能ハサラン若シ此ノ法  
ニシテ行ハルハアラハ請フ「レドモウス」氏ヲシテ烈火ヲ



煇カセ「カストレル」氏ヲシテ余ヲ其中ニ投セシメ「カニ  
ニング」氏ヲシテ余カ絶叫シテ生ナカラ焚死スルヲ見セ  
レメント此ノ激語「彼ニ狂愚蠢兎ノ徒ヲシテ嗤笑セシ  
メンノミナラス平昔「コベツト」氏ト持論ヲ同フセシモノ  
ヲシテ猶ホ且ツ驚愕セシムルニ至レリ何ントナレハ一  
千八百二十三年五月一日該新條例ヲ實絶スルニ當リ許  
多ノ障礙其針路ヲ妨ケ為メニ行ナハレサルハキカ如キ  
ハ當時一人ノ夢想セシモノタニナケレハナリ「コベツト」  
氏ハ其後幾ナラスシテ英國ニ歸リシカ尚ホ屈セス其持  
論ヲ主張セリ今ヤ余輩ハ進テ右條例實施ノ時限ニ到リ  
實際ノ變動影響果シテ如何ヲ説明スルノ前ニ猶ホ一二  
ノ記セサルヲ得サルモノアリ其事タル敢テ緊要ナラサ  
ルニ似リト雖凡亦タ以テ黙々ニ付スベカラサレハナリ

夫レ艱難貧苦ハ真ニ罪戾ノ父母ナリ今ヤ民安樂ニシテ  
其心術正シカラス行儀脩ラサルハ其罪終ニ道德學師ニ  
歸スベシト虫氏若シ夫レ民艱難貧苦ニ沈淪シ而シテ罪  
科ヲ犯レ蠢黠ヲ逞スルカ如キハ其罪尙タ誰ニカ帰セン  
余輩之レヲ暴政虐法ニ歸セサルヲ得サルナリ人民國債  
ノ増加ト租税ノ重課ニ苦ムヨリ贗造銀行紙幣使出ノ罪  
科ヲ犯シ刑辟ニ觸ル、モノ日ニ夥シク陪審官モ其彈糾  
責罰ノ繁ニ苦シムニ至レリ而シテ此ノ慘状ヲシテ若シ  
劇場ニ演スルアラハ人誰カ好シテ之レヲ觀ルモノアラ  
ン哉今マ爰ニ一千八百二十年間唯々「オールドベリ」ニ  
於テ處刑セラレタル贗造紙幣使出犯罪者ヲ奉シニ其數  
九ノ一百五十四人ニシテ就中死ヲ以テ論セラレタルモ  
ノ四十六人ナリキ乃チ全十二箇月ノ每一週間ニ死刑者



殆シト一人ノ比例ナリ然カモ是レ僅ニ當時ニ發生シタ  
ル弊害ノ一斑ノミ其全弱ノ如キハ請フ姑ク余カ明示ス  
ルヲ待テ抑モ地方銀行ノ破産ト製造局ノ廢業トヨリ全  
融閉塞ニ勞力者往々職ヲ失ヒ非常ノ困弊ヲ惹起シ後テ  
其困弊ノ清勢ニ固有ノ成果ヲ顯出セリ其固有ノ成果ト  
ハ何ノ即チ「マンチエスター」ノ暴動ト通俗ニ六條例ト名ク  
ル殘虐ノ法令是ナリ而シテ「マンチエスター」暴動詳細ノ  
事實ニ至テハ自カラ尋常英國史ノアルアリテ我理財史  
ニ論スヘキノ主義ニアラサルナリ且ツ是レ世人ノ能ク  
知ル所ニシテ英國ニ其歴史アルノ間ハ國人之レヲ忘却  
スル能ハサル所ナリ然リ而シテ彼ノ六條例ナルモノハ  
殘虐ナルヤ全ク人民ノ自由ヲ剝奪シ去テ其痕跡タモ遺  
サ、ルニ至レリト言フモ敢テ過言ニアラサルベシト信

ス乃チ其條例タルヤ第一允許ナクシテハ總カニ十人カ  
ニ十人位ニテモ一室ニ會合スルヲ禁セリ第二綴マ、ニ  
人民ノ室家ニ闖入シテ其貯藏兵器ヲ沒收スルノ權ヲ警  
吏ニ付与セリ第三人民ノ武事ニ歎似スル所業ヲ禁セリ  
第四恣ニ人民ヲ入牢禁錮スルノ權ヲ諸大臣ニ付与セリ  
第五苟モ政法ヲ誹議スルモノアレハ直ニ捕テ流刑ニ處  
セリ第六大ニ出板ノ自由ヲ壓抑シ種々ノ苛法ヲ設テ新  
聞出板人タルモノニハ皆ナ先ツ抵當証書ヲ其掛リ役所  
ヘ出サレメ而シテ其新聞中讒謗ニ似タル語アルトキハ  
直チニ之レヲ罰シ且ツ之レヲ出板スル度毎ニ必ラス先  
ツ原稿ヲ印刷局ヘ送致シ置カシムルニ至リシテ以テ國  
政ヲ左右スルカ如キ大政黨ノ之レヲ保護スルニアラサ  
レハ政論ニ係ル新聞雜誌ヲ出板スル能ハス之レヲ出板



スルモ唯々自滅ヲ招クノ外アラサルナリ是ニ於テ出版  
自由ハ蕩然地ヲ掃ヒ言論ヲ以テ暴虐ナル政界ニ抵抗ス  
ルモノハ唯々財産自由ヲ失ナフノミナラス依テ其生命  
ヲモ失ナフカ故ニ方正卓絶ノ論者或ハ罰ニ罹リ或ハ刑  
ニ觸レ國中復々敢テ時事ヲ説クモノナキニ至レリ蓋シ  
英國ノ暗黒時代ハ古来未々曾テ一千八百十九年ナル此  
時ヨリ甚シキハナカルベシ然レハ幾ハクナラスシテ虐  
政ノ根元タリシ畏ルベキ不幸ノ法令乃チ当初兩院ノ總  
同意ニ依テ議決シタル「ピール」議案ハ全ク改良スル所ト  
ナリ又々所謂ル「六」條例モ相繼テ廢止ニ歸セシカ獨リ出  
版條例ニ至リテハ尚ホ今日ニ存セリ然リ而シテ「ピール」  
建議案ノ勸力ヨリ發起シタル変化影響ハ稍ヤ人口ノ繁  
殖ヲ鼓舞利衝セリ然レハ今日ニ至リテハ其利衝力モ全

ク消盡ニ歸セリ  
抑々右ニ闕隙シタル弊害ハ唯々國憲ノ範圍内ニ於テ紙  
幣流通高ノ減額ヨリ發生シタル結果ニ過キスト雖ハ其  
弊害尚ホ此ニ止マラサルナリ夫レ流通紙幣不意ノ減額  
ヨリ金融閉塞ニ從テ九百ノ生業頓ニ衰弊シ庶民往々其  
職ヲ失ヒ其困苦ノ餘リ暴動一揆各所ニ起リ罪科ヲ犯ス  
モノ日ニ多ク從テ政府ハ愈々其刑法ヲ嚴ニセシカ故ニ  
罰ニ罹リ刑ニ觸ルモノ益々多ク人々皆ナ互ニ疑惑恐  
怖ヲ懷キ社會ノ信義ハ蕩然地ヲ掃フニ至レリ是ニ於テ  
乎當時ノ当局者ハ中等社會ノ人民ヲ國債紙幣ノ政策ニ  
繫結スル所ノ結網ヲ一層緊密ナラシム且ツ成ル丈ケ更  
ニ其結網ニ堅牢ヲ加ヘ數ヲ増シ以テ右政策ヲ鞏固ナラ  
シムルノ策ヲ企圖スルヲ以テ緊要ト考フルニ至レリ然



レ此當時僅々ノ識者ハ既ニ社會ニ新狀奇勢ノ發起スル  
ヲ觀察シテ該政策稍ヤ壞敗ノ前表ヲ顯出スルヲ知レリ  
抑モ當時ノ人民タルヤ數十年ノ戦乱ヲ免カレテ初テ平  
和ヲ得タルコトナレハ其平和ノ福祉ノ慶ニ頼ラント希  
望シタルニ然カレ能ハスレテ却テ一層甚シキ貧苦困難  
ニ逢過スルノ情勢ナレハ終ニ堪ユル能ハスレテ或ハ重  
税ニ向テ不満足ヲ鳴シ或ハ政法ヲ誹議スルコト愈甚シ  
斯ノ如ク人民ノ不平不満足益々増進スルニ從テ政府ノ  
勢力益々萎靡セシテ見ル蓋シ巨萬ノ金額ヲ浪費スルノ  
権カアルヨリ從テ生スル勢力ハ此時既ニ尽キ總計八億  
萬封度ノ債ノ為シテ今盡ク之レヲ費用シ最早此ノ上ニ  
募債セント欲スルモ能ハサルナリ且ツセル議案議決  
ノ條例ニ由テ執政者ハ右國債ノ利息ヲ与辨スルニ金塊

ノ量目一「オンス」三封度十七志十片半ニ交換スヘキ價格  
ノ交換紙幣ヲ以テセサルヲ得ス從テ諸税ヲ收ムルニ又  
々同價格ノ交換紙幣ヲ以テセサルヲ得ス蓋シ其影響ノ  
及フ所ハ特ニ將來紙幣ノ發行ヲシテ定限内ニアラシメ  
増加ノ發行ハ如何程財政上ニ輕便有益ナルモ決シテ其  
定限ヲ超テ増加スルコト能ハサラシムルノ惡果ニ至レ  
リ之レカ為メ金融ヲ閉塞シ從テ生シタル弊害ニ付テハ  
余輩之レヲ其適當ノ所ニ開陳スベシ蓋シ當局者ハ紙幣  
減少ヨリ其財政々業上ニ稍ヤ異常ノ衰兆ヲ顯出スルヲ  
見テ一層勢力ヲ増シテ之レヲ堅牢ナラシメント企圖セ  
リ  
政府ハ斯ノ如ク其財政ヲ鞏固ナラシムルノ策ヲ工夫セ  
シカ終ニ一策ヲ工夫シ得タリ即チ政府ノ保護ニ由テ貯

大蔵省



蓄銀行ト名クル銀行ノ設立是ナリ抑モ貯蓄銀行ナルモ  
ノハ其初起ヲ考フルニ殆ント一千八百十六年ノ頃初テ  
オールドジブーロースノ名ヲ以テ知ラル、年金ヲ受  
ル一官吏ノ保護ニ由テ設立セラレ但シジョージ、ロース  
ハ宰相「ピット」氏ノ股肱タリシカ其後相ヒ續ヒテ宰相教  
代ノ間職ヲ奉シ忠勤ヲ此國ニ盡シ且ツ巨萬ノ富ヲ致セ  
シ人ナリテヨリ後一千八百十七年ニ至リ終ニ國會初テ  
條例ヲ議決シ以テ之レニ保護ヲ加ヘタルヨリ以テ大ニ  
増進スルニ至レリ夫レ貯蓄銀行ノ設立ハ中資力ノ人民  
ノ國債政策ニ連合セント企ツル政畧ニ外ナラサルナリ  
是レ余ノ信レテ疑ハサル所ナリ何トナレハ其後ノ政府  
其財政困難ノ時ニ當テ屢々該銀行ノ資本ノ以テ其急ヲ  
救ヒ大ニ便益ヲ達セシメテアリト雖モ此便益ハ其設立ノ

時ニ於テ「ロース」氏及ヒ政府執政者ノ決シテ預知スル所  
ニアラサルヲ信スルカ故ナリ而シテ該銀行事業ノ方法  
ハ衆民ノ周ク詳知スル所ナレハ之レヲ茲ニ詳説スルヲ  
要メスト雖モ該銀行設立ノ右政畧ニ出ルハ其方法ニ微  
シテ知ルヘキナリ抑モ其方法ノ要旨ヲ觀察スルニ二百  
封度以下ノ金額ヲ節儉貯藏シ得ヘキ小資力ノ人民ヲ誘  
液シテ其節儉ニ殘シタル金ヲ該銀行ハ預ケシム而シテ  
其創業ノ頃ニ於ケル預金利息ノ割合ハ稍ヤ國債証券ノ  
利息ニ超過セリ而シテ其預金ハ之レヲ政府撰任ノ預金  
取扱委員ニ管掌セシムルモノトス又タ取扱委員ハ其預  
金ヲ以テ政府ノ各種証券ヲ買ヒ之レニ交換スルノ権ヲ  
有ス而シテ其利息ノ差額ト委員ノ取扱費ハ之レヲ國稅  
ニテ支辨ス此ノ方法ニ由テ該銀行ニ僅少ノ利益ヲ得セ



レタリ即チ其一ハ其利息ノ國債証券ノ利息ヨリ一層高  
利ナルト其ニハ株券價直ノ浮沈ヨリ時トシテ生スル損  
害ヲ保險セラルハトノ二益ヲ得タリ此政策タルヤ果シ  
テ人民ヲ帰向誘導シ其目的ヲ達スルヲ得テ預金ノ額數  
非常ニ増殖シ政府為ニ利息ノ割合ヲ減シ且ツ他人ノ名  
目ヲ藉テ巨額ノ金ヲ預クル財主ニ向テ其預ケヲ拒絕セ  
シカ為メ嚴刺ノ豫防法ヲ設ケサルヲ得サルニ至レリ嗚  
呼此政策タルヤ節儉貯藏シ能ハサル人々ニ税ヲ課シテ  
貯藏シ能フ人々ノ預金取扱費ト其利息ヲ支辨セシムル  
ノ理ニ基ツクモノニシテ奸猾不正非計タルヲ免カレサ  
ルナリ然ルニ始終一言ノ此政策ニ向テ抗論スルモナ  
キハ之レヲ奇怪ト云ハサルヲ得サルナリ然レモ其害尚  
ホ此ニ止マラス近年ニ至リ該銀行ヲ妄用シ甚シキ弊害

ヲ醸生シタルヲ見ル乃チ貯蓄銀行管掌法改正條例中預  
金取扱委員ノ權限ニ係ル確實ナラサル條目アルヨリ右  
取扱委員ハ其監守スル舊租稅院手形ヲ政府ニ与ヘ其代  
リニ政府ヨリ新租稅院手形ヲ請取り得ヘキ權アリト自  
信シ屢々之レヲ行ヒ宰相ハ又メ斯ク交換シ得タル舊租  
稅院手形ヲ再々賣渡セリ之レヲ詳説スレハ間接ノ方法  
ニテ新券ヲ發シ隱然ト國債ヲ増スニ外ナラサルナリ然  
リ而シテ近年ニ至リ閣議院ニ於テ嘗テ政府具委員ニ  
管掌セシメタル預カリ金ヲ費用シ間接ノ方法ニテ國債  
ヲ増加シタルヲ以テ譴責セラレタリレハ確實ノ事實ニ  
シテ人ノ知ル所ナリ而シテ此譴責ノ正理ナルハ世人ノ  
皆ナ解スル所ニシテ嘗テ此ノ事ニ向テ異論ヲ試ミタル  
モノアルヲ聞サルナリ故ニ貯蓄銀行制法ノ此ノ點ニ付



テハ敢テ味々之レヲ是非スルヲ要セサルナリ  
抑モ政府ハ其目的通りニ貯蓄銀行設立ヨリ其勢力ヲ増  
スヲ得タル乎余ハ之レヲ信スル能ハサルナリ蓋シ其預  
カリ金ハ多ノ人民中勤勉勞力者ノ預ケレモノニアラサ  
ルヤ確乎トシテ明カナリ何トナレハ該預カリ金ノ増殖  
セシニ從テ貧民救助税ハ年々ニ増殖スルト雖モ勞力者  
ノ給金商業ノ利潤ハ減少セシカ故ナリ夫レ政府危急ノ  
時ニ當テ助力ヲ望ムハ人民中豪氣強力ノモノニ頼ラサ  
ルヲ得サルナリ而ルニ該銀行ニ貯金ヲ預ケタル人々中  
ニハ右等ノ如キ氣象アルノ人ヲ見ズ故ニ一端國難ノ發  
起スルアリテ民心ニ恐怖疑惑ヲ生スルアラハ該銀行ノ  
忍テ減セ至ルヤ疑ヲ容レサルナリ例之ハ今國民中ニ  
外寇若シノハ内乱ノ破裂セントスルノ形勢アリテ為ニ

恐怖騷擾ヲ生スルヲアラハ數週間ヲ過スレテ該銀行ハ  
數百萬封度ノ預リ金ヲ當時既ニ二百万封度ニ超過セリ  
全銀ヲ以テ交換セサルヲ得サルニ至ルハ此時ニ際シ  
テ銀行若シ之レヲ交換スル能ハスンバ其成果ハ果レテ  
如何ソヤ原ト之レヲ設立シタル政府ニ大險害ヲ醸生シ  
来ランヲ識者ヲ待テ而シテ後ニ知ラサルナリ  
夫レ一千八百十四年ノ平和アリテ紙幣ノ發行流通高大  
ニ減額シ從テ金融閉塞シ從テ政機ノ活動ニ衰状ヲ顯ス  
ルニ至リ為ニ發起シタル新狀奇事固ヨリ少ナシトセス  
右ニ開陳シタル貯蓄銀行設立ノ如キモ亦又其一ニ居レ  
リ而シテ其影響尚ホ此ニ止マラス然レモ一一其變動影  
響ヲ詳論スルハ僅々數葉ノ文字ノ能ク盡ス可キニアラ  
サレハ唯々當時重大ナル變化ノ二三ノ事實ヲ記載スル



ヲ以テ是レリトセサルヲ得ス而シテ右二三ノ變化タル  
ヤ其初起一千八百十九年ト通貨交換議案ヲ舉行スル時  
トノ間ニ基ヒスルヲ以テ余ハ之レヲ此ニ陳述スルヲ以  
テ適當ト信スルナリ即チ其一ハ世ニ死<sup>レ</sup>積ト名ツクル半  
俸給及ヒ海陸軍士官ノ年金給與ノ負擔ヲ輕減セントス  
ルノ政策ニシテ其二ハ自由貿易ヲ德源シ外國ト交際ヲ  
擴充スル口実ヲ以テ旧航海條例ヲ寬減ニスルモノ是レ  
ナリ

抑モ死<sup>レ</sup>債輕減政策タルヤ當時貧困政府ノ國帑ヨリ右年  
金ヲ給與スルノ負擔ヲ輕減シ數年間コレヲ後來ニ讓リ  
テ負擔セシムルノ政策ニシテ全ク國帑ノ窮乏ヨリ起レ  
ニ外ナラス而シテ其結果ヲ觀ル時ハ宰相タル者ノ政畧  
上ニ於テ一大失錯ニ出サリシナリ而シテ為ニ其財政ノ

窮困ヲシテ却テ後前ヨリ甚シカラシメタリ蓋シ此失敗  
ハ斯ノ如キ政策ノ免カル、ヲ得サルノ常數ナリ抑モ此  
ノ政策ヲ設クルニ至リレ所以ノ理由ヲ考フルニ一千八  
百二十二年ノ初ニ於テ海陸軍士官ノ年金額數ハ全數ニ  
テ五百萬封<sup>レ</sup>度ノ巨額ニ達セリ即チ女皇<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>統治ノ時ニ  
於ケル全歲入ノ額數ニ齊シ又々右年金ヲ受領スル勇士  
勇婦ノ專域ヲ測算スルニ其人員漸次ニ減少シ四十四年  
間ヲ經過シテ全ク消盡スルニ至ルヲ觀察セリ蓋シ右政  
策ヲ設立セシモノハ此ノニツノ事實ニ基<sup>レ</sup>クニ外ナラ  
サルナリ而シテ當時ノ政府ハ右ノ事實ニ由テ終身年金  
四十四ヶ年間ノ平均年額ヲ計算シ以テ其負ノ處ノ巨額  
ノ負擔ヲ輕減スルノ方略ヲ工夫セリ其方畧ハ則チ或ル  
會社ニシテ四十四年ノ各歲ニ於テ該終身年金ノ經常歲



額ノ年々支辨シ得ヘキモノヲ求メ是レニ該年金ノ給與  
ヲナサシメ而シテ政府ハ其會社ニ賠償スルニ全四十四  
年間ニ百八十萬封度ノ年賦金ヲ以テスルニアリ然ル中  
ハ則テ該四十四年ヲ得ルノ後右年金ハ全ク消尽スヘシ  
ト推算セリ此ノ政策ヲシテ果シテ實際ニ行ナハシメハ  
當時政府ノ負擔ヲ輕減シ將來政府ノ重荷ヲ増加シタル  
ヘシト至ニ不幸ニシテ當時諸會社ノ取テ斯ノ如キ廣大  
ナル商業約定ヲ政府ト取結ハントスルモノナカリシヲ  
如何セン然リト雖モ終ニ英國銀行右今年賦金二百八十  
萬封度ノ内五十八萬五千七百四十封度ノ年賦ヲ買ヒ受  
ルコトナレリ然レモ其政策ノ方畧ヲ變更シ銀行ノ  
買金ヲ四十四年ノ間ニ支拂ハシムルノ法ヲ變シ其全額  
ヲ僅々六〇年間ニ拂金ヲナスコトノ約定セリ此ニ於テ政

府會計ノ狀勢ヲ觀ルニ乃テ該政策事務取扱委員ハ六年  
間國庫ノ總資金中ヨリ年金引當高二百八十萬封度ヲ請  
取り其内五十八萬五千七百四十封度ヲ銀行ハ年賦トシ  
テ拂渡シ其殘額ニ銀行ノ購買金ヲ加ヘテ之レヲ租稅院  
ニ收メ以テ國帑資力ノ一部トナセリ斯ノ如キ見越ニ均  
シキ政策ニ由テ政府ノ歳入ハ六年間非常ノ増額ヲ為ス  
カ如シ然リト雖モ六年ヲ過テ其増額ハ全ク終リテ告ツ  
ルニ至レリ然ルニ政府ハ四十四年ノ終未即テ一千八百  
二十三年ニ至ル迄年々五十八萬五千七百四十封度ヲ支  
辨セサルヲ得サルナリ然リ而シテ右歳入ニ假莊ノ餘贏  
ヲ顯ハシタルモノハ一千八百二十三年ヨリ一千八百二  
十九年ニ至ル迄ノ六年間銀行ノ購買金等ニ收度アリレ  
ニ因由スルカ故ニ其明年「ウエル」候執政ノ時ニ



至テハ復々斯ノ如ク餘贏アルヲ見サルナリ其餘贏アラ  
サルノミナラス我カ國ハ更ニ銀行へ年賦ヲ拂渡スノ負  
擔ヲ受ケタルニ半額俸給及ヒ養老金給与ノ負擔ハ依然  
トシテ往時ト異ナルコトナシ嗚呼此政策タルヤ國家ノ  
公益ヲ致スモノニアラスシテ唯々一時ノ詭計ニ外ナラ  
サルナリ  
右ニ陳述シタル奇怪誤謬ノ政策ハ當時政路ノ艱難ヨリ  
生シタル一結果ニシテ其他ニ一ノ著明ナルモノハ則チ  
舊航海條例ヲ改正セサルヲ得サル情勢ニ至リシモノ是  
ナリ抑モ舊航海條例ナルモノハ往昔攝政「コロシウエル」氏  
執政ノ時ニ制定セラレ以来之レヲ變更スルコトナ  
シニ此時ニ至テ終ニ國家貧困衰耗ノ犧牲トナレリ夫レ  
往昔ノ條々ハ甚々嚴密ニシテ英國商船ニ英國航運貿易

ノ專業ヲ得セシムルモノナリ乃チ此條例ニ據ルヤハ英  
國船ニシテ水夫ノ内四分ノ三英水夫ノ采ルモノニアラ  
ザレハ亞細亞、亞弗利加、亞米利加ノ産物ヲ英國ニ輸入ス  
ルヲ許サス歐洲産物ハ外國船ニテ輸入スルヲ禁セスト  
雖氏其輸入税ヲ課スルハ英船ニテ同物品ヲ輸入スルヨ  
リモ一層甚シカリシヲ見ル往昔斯ノ如キ條例ヲ実行シ  
得タルモノハ抑モ其時英國ノ豊富隆盛ニシテ國威ノ振  
ヒシニ因ルナリ而シテ我國ノ輸出品ノ如キハ之レヲ輸  
出スル我カ國ヨリモ之レヲ輸入スル外國ニ緊要ナリシ  
ハ言ヲ待タズ我カ國輸入品ノ如キモ多クハ榮耀品ニシ  
テ之レヲ省クモ決シテ不都合ナラサルニ我カ國之レヲ  
多ク輸入シタルハ又々外國輸入者ノ大利益マリシヤ明  
カナリ此ノ時ニ當テ英國々域ノ海外ニ輝キレコトノ大



ナルヤ外國ノ執政者ハ「コロノウエヤレル」ノ名ヲ聞テ恐  
怖戰慄シ英國一端兵ヲ動カサハ為ニ歐州全大陸ノ各政  
府悚然震慄スルノ状勢アリシヲ見ルナリ  
往時ハ則チ斯ノ如シト雖モ余輩ノ今論陳レ來リシ當時  
ニ於テハ情勢全ク之レニ反シ歐州各國我カ國製造品ノ  
需用ヲ接續スルハ却テ我英國ノ國計上ニ大緊要トナル  
ニ至リ而シテ當時ハ往時ト異ナリ貧民大ニ増殖シ其日  
々ノ生活ヲ織貨輸出ノ接續ニ恃ム織匠方力者固ヨリ數  
多ナリシカ故ニ外人ニ誑諛ヲ獻レ賄賂ヲ与ヘ以テ右輸  
出航運ノ貿易ヲ接續セント企圖セリ抑モ此卑屈ノ計ニ  
由テ外人ノ愛顧ヲ得ントスルニ至リシモノハ蓋シ當時  
英國既ニ八億萬封度ノ國債ヲ負ヒ往時ト異ナリ武威ノ  
以テ威嚇脅迫シ得ルノ國勢ニアラス是レ當時執政者カ

覺知スル所ナリ然リト雖モ海外各國今稍ヤク初テ自國  
ニ於テ製造ノ起シ敢テ我供給ヲ仰カサルニ至リ從テ我  
カ國物品ノ輸入ニ向テ輸入禁止條例ヲ設クルニ至リ我  
カ國其禁止ニ向テ責問スレハ渠等則チ我レニ對テ御等  
少シク自カカラ顧テ自國ノ航海法令ヲ看テ之レカ為メ吉  
人ノ物品航運上ニ加フル禁制ヲ察セヨト此答辭タルヤ  
恰モ雷震ノ如ク我國当局者ノ身ニ夷キ愕然トシテ畏縮  
セリ嗚呼往昔ハ國威強クシテ斯ノ如キ條例ヲ主張シ得  
タルモ今ハ政府貧困微弱ニシテ此ノ如キ正論ニハ復タ  
抗論シ能ハサルナリ此ニ於テ當時ノ執政者ハ已ク得ス  
大勢時運ノ然ラシムル所ト覺悟シ自國ノ製造事業ノ衰  
頹ヲ回復センカ為メ終ニ英國ノ海運主權ヲ犧牲トナシ  
航海條例ヲ廢棄スルコトハナレリ之レヲ廢棄スルニ



当リ自由貿易ノ理財法ヲ假借シテ其事實ヲ文飾シ之レ  
 實際ニ施行セシカ元來英國ノ船舶ハ古ク萬國ニ以例  
 ナキ巨額ノ税ヲ課セラレモノナリシヲ以テ該航海條  
 例ヲ廢セシヨリ輕税ナル外國船ノ競争ニ壓倒セラレ其  
 成果ハ則チ我國ノ船主中ニ非常ノ破産零落ヲ醸生レ往  
 時英國ト欧州各國トノ間ニ盛ニ行ナハレシ我海運貿易  
 ハ今全ク衰頹ヲ顯セリ是レ隱蔽文飾セント欲スルモ決  
 シテ能ハサルノ事實ナリ尤ノ表ニ據テ右衰頹ノ事實ノ  
 明証スルヲ得ヘキナリ此表ハ則チ互相貿易條例ヲ奉行  
 レタル一千八百二十三年前後ノ海運貿易ノ消長ヲ示ス  
 モノナリ

船舶比較表

一千八百二十二年  
 一千八百三十九年

	船数	噸数	船数	噸数
普國ニ出航シタル英船	五三九	一〇二、八四七	七三二	二一、四七〇
丁抹ニ出航シタル英船	五七	七、〇九六	四九	五、五三六
那威ニ出航シタル英船	一六八	一三、二七七	二一	二、五八二
瑞典ニ出航シタル英船	一二三	二〇、七九九	四九	八、三五九
合計	八八七	一四四、二一九	八四〇	一、二七、九四七
英國ニ來航セシ普國船	二五八	五八、二七〇	一、二八三	二二九、二〇八
英國ニ來航セシ丁抹船	四四	三、九〇〇	一、五三一	一〇六、六九〇
英國ニ來航セシ那威船	五八	八七、九七四	八六八	一〇九、二二八
英國ニ來航セシ瑞典船	七二	一三、六九二	二七二	四九、二七〇
合計	九三二	一六三、八四六	三、五五四	四九〇、三九六

此比較表ハ唯々欧州北部各國トノ海運貿易ノ比較ニ過  
 キスト雖モ左ノ表ハ則チ互相貿易法ノ英國商船及ヒ海



噸數	噸數	噸數	噸數
百分一割合	百分一割合	百分一割合	百分一割合
噸數	噸數	噸數	噸數
百分一割合	百分一割合	百分一割合	百分一割合

運貿易上ニ及ホセレ一般影響ヲ明示スルモノナリ此表ニ據テ觀ルルハ此時迄英船海運貿易上ニ非常ノ衰状ヲ顯サ、リシモノハ我殖民民地ノ増加スルト北米合衆國アルニ由ルナリ若シ此西途ノ海運貿易ナカリセハ遠ク昔日ニ衰頹ヲ告ケタルヤ疑ヲ容レサルナリ但シ合衆國ニ對シテハ其獨立ノ是認セシ和約ヨリ以テ特別ノ好意ヲ以テ遂次ニ航海條例ヲ寛減シ而シテ該國ノ棉花輸出ノ如キハ西國ノ貿易上ニ於テ大緊要ノモノトハナレリ然レ氏將來我國海運ノ情勢ハ全ク此ニ異ナレリ

大英國ト世界各地ノ間ニ各時限ニ航運シタル船舶ノ噸數ヲ明示スル種別要畧表

歐洲各國ト	歐洲ニ於ケル英領、但シ愛蘭ヲ除ク	米合衆國ト	外國ノ米利堅殖民地ト	英國ノ米利堅殖民地ト	亞非利加ト	印度	新南威勒士	グリーンランド、及南方漁獵場ト	合計
一、〇三四、五七	六〇、二七五	一、二三、一〇八	一、八〇四	二六八、四六三	四四、〇七〇	五九、五四六		四三、〇二一	一、六三三、八〇四
六三、二八	三、六九	七、三三	〇、四一	一六、四二	二、七〇	三、六四		二、六三	一〇、〇〇〇
一、二六、一五二	八四、七五五	戰事(四七六)	六七、一六三	三四八、一八八	一五、九四五	四一、九九三	五六一	四五、三七五	一、七三三、八〇八
六五、〇六	四、九〇	〇、〇三	三、八八	二〇、一二	〇、九二	二、四三	〇、〇三	二、六三	一〇、〇〇〇
一、六二五、五三三	一六五、三三三	三七〇、九二四	一〇一、八〇六	八〇三、五九六	四八、五八六	一四九、九五八	三五、九一九	三三、六三六	三、三二五、二二一
四八、五九	四、九七	二一、一五	三、〇六	二四、一七	一、四六	四、五一	一、〇八	一、〇一	一〇、〇〇〇

上表ハ則チ「ポルトガル」氏著ス所ノ英國開進論ヨリ採萃スルモノニシテ唯々一千八百三十五年ニ至マデ單ニ我歐洲海運貿易ノミヲ以テ觀レハ些少ノ増進ヲ顯ハスト



雖我國船海運貿易ノ全局ノ半ヲ參觀スハ則テ減縮  
セリ而シテ該一千八百三十五年ヨリ以來其衰頹ノ特ニ  
甚ニキヲ見ル「ポルトガル」氏云ク一千八百三十二年ヨリ一  
千八百三十六年ニ至ル五箇年ノ間ニ於ル歐洲各國ハ輸  
出金額ハ一千八百十五年ヨリ一千八百二十年ニ至ル戰  
後五箇年ノ間ノ輸出金額ニ比シテ殆ント二割ノ減少ヲ顯  
ハセリト然リ而シテ我カ國ハ航海條例ヲ廢シ斯ク自由  
貿易主義ヲ實施スルニ拘ハラス其後所謂ル普國同盟聯  
合ナルモノ起リ稍ヤ盛シニシテ進取ノ勢ヲ現シ彼テ我  
製造品ノ供給ヲ日耳曼人民一千八百萬人ヨリ拒絕セン  
トス而シテ益々擴充セシトスルノ情勢アレキ之レヲ判  
束スルニハ先ツ諸國ノ聯合同盟ヲ得テ其兵力ニ據リ魯  
帝ヲシテ一方ハ兵ヲ「ダニユ」ト「ブ」河岸ニ出シ能ハサラシ

又「ター」方ハ「インザス」或ハ「カンジ」トス河ニ進メ能ハサ  
ラシムルニ「ヤ」ラサレハ右同盟聯合ノ勢ヲ割スルニ違ア  
ラサルナリ然ルニ魯帝ハ當時鷲鳥ノ欲ヲ以テ君子但マ  
ヲ畧シ其地ニ於ケル「シ」ント「ソ」フ「セ」ヤノ回々教堂中ニシ  
ントニコラスノ龕ヲ安置セシトスルノ企謀既ニ明カナ  
リ  
一時ハ國威隆盛ニシテ傲慢不遜ヲ以テ外國ニ接シ得タ  
リシ英國政府其衰頹ヲ内ニ顯スルヤ之レヲ隱蔽セント  
欲スルモ能ハス終ニ外國ノ觀察理會スル所トナリ稍ヤ  
其侮ヲ受クルニ至レリ蓋シ外國ノ我カ衰狀ヲ觀察理會  
セシヤ一千八百二十三年佛國ノ舉動ニ由テ明證スルヲ  
得ヘキナリ抑モ佛國戰爭ノ末年佛人嘗テ西班牙及ヒ葡  
萄牙ヲ占奪シタル時ニ當リ英國「ウエル」リント「シ」候ヲ將



トシテ兵ヲ該半嶋ニ出セリ而シテ英兵ハ西班牙葡萄牙  
ノ兵ト合シテ終ニ佛人ヲ撃テ退ケリ然ルニ此ノ時英兵  
ハ勿論西班牙葡萄牙ノ兵士ヨ至ル迄不ク其俸給ヲ英國  
ヨリ供セリ是余ノ既ニ前章ニ稍ヤ記載セシ所ニシテ聰  
明ナル讀者ハ必ラス記憶セラルナルヘケレハ余ノ敢  
テ喋々スルヲ要セサルヘシ支レ佛國戰爭局ヲ結ヒ平和  
ニ至リシ時ニ於テ西班牙王「フェルデナント」七世ハ英國ノ  
保護ニ由テ位ニ即テ而シテ戰爭ノ間ニ西班牙國會英國  
執政者ノ指圖ヲ受テ制定シタル憲法ヲ遵奉セリ然リト  
雖ニ後久シカラス西王ハ該憲法ニ據テ國政ヲ施スコト  
ヲ厭患スルニ至レリ蓋シ該憲法ノ一大主意ハ即チ西班  
牙國ニ於ケル羅馬教會ノ資産ヲ賣リ拂ヒ其代金ヲ以テ  
往時戰爭ノ間ニ西國當テ倫敦及「アムステルダム」ノ「ジュウ

教徒ヨリ借リ入レタル負債ヲ償還セントスルニアリ而  
シテ「フェルデナント」ハ元來熱心ナル羅馬教徒ナリ且ツ其  
臣民ニモ多ク同宗ノ教徒アリテ共ニ皆チ右強奪ノ法制  
ヲ厭患セリ何トナレハ右教會領地歳收ノ大半ハ貧民救  
助ニ用セラレシモノナルカ故ニ之レヲ剝奪セラレト  
キハ其害特リ教會ニ止マラス活路ヲ失フ貧民モ亦タ少  
ナカラサルカ故ナリ然レニ國王ノ該憲法ヲ奉セサルノ  
結果ハ則チ内乱ヲ惹起シ其間ニ憲法黨ハ國會ヲ「マトリッ  
ド」ニ會シ憲法ニ由テ撰任シタル大將「リゴ」ニ命シテ  
隊ノ兵ヲ率ヒ國王ニ迫ラシメタリ此警報ノ佛國ニ達ス  
ルヤ佛國政府ハ其時マテ恰モ英國ノ臣隷ト均シキ状勢  
ナリシニ忽チ競争有為ノ氣象ヲ振興シ一大進撃ヲ試シ  
其權勢ヲ回復シ再々其威カヲ西班牙ニ專ラニシ而シテ



終ニハ名ヲ西班牙ノ為メニ謀カルト云フニ假借シ豊饒ナル西班牙殖民地ノ白露及ヒ墨西哥ニ在ルモノ、當時本國ニ叛シテ獨立セント企圖セルヲ征服畧取シ以テ自己ノ利ヲ計ラント決心セリ而シテ此目的ヲ實際ニ達セシカ為メ佛政府ハ佛王ノ甥「アングロレム」侯<sup>侯</sup>ヲシテ兵十萬ニ將トシテ西班牙國ニ進發セシメ以テ西班牙ノ國會ヲ壓服シ佛國ノ保護ニテ「フェルデナンド」王ニ國ヲ主宰スルノ大權ヲ回復セント企圖シタリ

抑モ佛國ノ該舉動ハ英國ニ對シテ大ナル凌辱メリシヤ言ヲ待タス何トナレハ當時英國ハ西班牙國立憲制度ノ保護者トシテ世界萬國ノ認ムル所ナリ且ツ墨西哥及ヒ白露<sup>界</sup>ノ叛乱諍鬪ノ如キハ英國ノ之レヲ視テ生棉花ヲ我レニ輸入シ金銀塊ヲ我英國銀行ノ金庫ニ吸入スルヲ得ヘキ新貨

易場ヲ閱クノ道ヲ得タリトスル所ナリ此ヲ以テ歐米各國ハ皆ナ意メ英國ノ舉動ニ注キ一人トシテ踵ヲ立テ英佛ノ間ニ戰爭ノ破裂ヲ待メサルハナク英國ハ一時此大國辱ヲ忍フベシト云フカ如キ考案ハ全地球ヲ通シテ人々ノ嘲笑スル所トナレリ就中歐洲各國ノ如キハ皆ナ踵ヲ立テ目ヲ拭テ兩國ノ交戦ヲ待テ其勝利ヲ何レニ歸スル乎ヲ注目セント勉メリ嗚呼惜ムラクハ此等ノ國人ハ皆ナ其觀察精シカラス則算密ナラサルモノナリ然リト雖モ特リ佛人ハ能ク我國情ヲ觀察シ其則算正鵠ヲ得タリ抑モ路易十八世<sup>數</sup>多ノ反對說アルニ拘ラス嘗テ「ハトウエ」ニアリシトキ我國情ヲ付テ一大事實ヲ聞知セリ其一大事實トハ何ソヤ則テ歴史家「ヒニウ」ガ嘗テ先言シタル時期ニ至レリ即チ此國ノ榮譽ト平穩ヲ犧牲ニス

大義



ルヨリモ國債ノ利息支辨ヲ保守シ又々保守セサルヲ得  
 サルノ時運是ナリ  
 抑モ路易十八世及々其内閣ガ我國ノ財政ノ衰状ニ付テ  
 觀察測算セシモノ、要旨ハ即テ充ノ如キヲ信ス當時英  
 國政府ノ債ハ全數ニテ既ニ八億萬封度ノ多キニ達シ而  
 シテ其利息ハ有期債無期債ヲ合シ全數ニテ三千萬封度  
 ノ巨額ニ上レリ此利息ヲ受領スル國債主ノ數ハ殆ント  
 二十七萬五千八百三十九人ニ及ヘリ是レ佛王並ニ其内  
 閣ノ精密ニ觀察セシ所ナリ而シテ又々右國債主ハ左ノ  
 如ク分等セラレハコトヲ確知セリ

表

株券所有者	一年二百封度以下ノ受領者	二五〇、八一六
株券所有者	一年一千封度以下ノ受領者	二二、九三四
株券所有者	一年四千封度以下ノ受領者	一、九三七
株券所有者	一年四十封度以上ノ受領者	一、五二
株券所有者合計		二七五、八三九
	受領金員封度	

株券所有者	一年一千封度以下ノ受領者	二二、九三四
株券所有者	一年四千封度以下ノ受領者	一、九三七
株券所有者	一年四十封度以上ノ受領者	一、五二
株券所有者合計		二七五、八三九
	受領金員封度	
株券所有者	二十五萬〇八百十六人ノ凡受領	九〇〇、〇〇〇
株券所有者	一万二千九百三十四人ノ凡受領	八五〇、〇〇〇
株券所有者	一千九百三十七人ノ凡受領	三五〇、〇〇〇
株券所有者	一百五十二人ハ總テ以上ノ殘額ヲ受領ス	九〇〇、〇〇〇
人員合計	二七五、八三九	三〇、〇〇〇、〇〇〇
人員合計		三〇、〇〇〇、〇〇〇

此ノ計算タルヤ此時ヨリ數年ノ後「ゴベット」氏力嘗テ一  
 千八百二十九年ニ執權「ウニ」リントン「候」出版シタル



二三會計事實ニ基テ推究測算シ以テ考案ニ得タルモノ  
ナリ是レ蓋シ天ハ能ク隱密ヲ知リ言ハスシテ之レヲ人  
ニ默示スルニ由ルナリ然リト雖モ其大体ノ事理ニ至テ  
ハ「コベット」氏測算ノ前既ニ苟モ事物狀勢ノ内景ヲ觀察  
測算シタル人々ハ皆ナ之レヲ知リ而シテ路易十八  
世及ヒ其内閣「サビエル」<sup>「ジャトウブリヤン」</sup>ノ如キハ即チ  
其大体ノ情勢ヲ知ルモノニシテ又々其大体ノ情勢ヲ知  
レハ其政畧上ニ於テ十分ナリシト云ハザルヲ得ス抑モ  
當時英國ニ於テ最モ多ク威權勢力ヲ有スルモノハ「ジエウ」  
教徒即チ福祐社會ナリ而シテ破ノ年々九百萬封度ノ利  
息ヲ領收スル一百五十二人ノ國債主ハ即チ其社會ノ袖  
領ナルヲ以テ自カラ此ノ國ノ真執權者タラサルヲ得ス  
而シテ此ノ輩ハ固ヨリ利己主義ニ貪着スルモノナレハ

寧ロ國辱國害ヲ生シ来ルモ自己ノ年利息金ノ領收ヲ危  
險ナラシムルカ如キ結果ヲ生スル政策ハ必ラス其舉行  
ヲ拒絶スベシ是レ必然ノ理勢ニシテ人性ノ變化スルニ  
アラサルヨリハ必ラス然ラサルヲ得ス故ニ國家危急ノ  
秋ニ際シ此ノ輩ニ向テ國策ヲ全フセシコトヲ冀望シ愛  
國ノ義氣ヲ希望スルモ自己ノ利ニ害アルトキハ傍觀坐  
視シ去ルヤ疑フ容レサルナリ是レ則チ佛王路易及ヒ其  
内閣ノ觀察測算シ其必ラス然ルヘキヲ信セシ所ナリ而  
シテ久シカラスシテ果レテ實際ノ事實ニ由テ其測算ノ  
的中セラレ見ルナリ蓋シ此ノ時ニ當テ英國ノ執政者ハ  
自カラ其財政ノ困難ヲ知リ和議若シ破フルハコトアラ  
ハ連モ兵力ヲ以テ西班牙國會ノ權カヲ維持保存スル能  
ハサルヲ悟リ西班牙人ニ説キ勸ムルニ講和ヲ以テセシ



ト雖其國會之レヲ肯セサリレカ故ニ又中裁セント  
双方へ建議セリ然レ其當時佛國既ニ其勢力ヲ挽回シ強  
ク其両眼ヲ墨西哥及ヒ白露ニ貪着シメレハ最早世論ヲ  
顧ミス其目的ヲ漸行セント決意シ敢テ中裁ヲ拒絶セリ  
英國ニテハ議院ニ於テ衆議員皆テ佛國ノ暴舉ヲ痛論セ  
リト雖其一人トシテ敢テ宣戰ノ一語ヲ口外ニ発スルモ  
ソナリ終ニ上院ニ於テハ「ロルド、グレイ」詮方ナク上帝其  
至大慈悲ヲ以テ或ハ佛人ヲシテ其暴舉ノ功果ヲ奏スル  
ヲ得サラシメシテ祈願シ下院ニ於テハ「カストル」  
ニ繼テ今マ外務卿トナリシ「カンニング」氏同主義ヲ祈願  
シ往再時ヲ移ス間ニ佛人ハ既ニ西班牙國ニ侵入シ數周  
間ヲ過キスレテ憲法黨ノ巢窟「カジス」ヲ拔キ國會ヲ解散  
シ終ニ專主權ヲ「フェルチナ」ト王ニ回復セリ此ニ於テ

奉法教聯合同盟忽チ猶忌心ヨリ之レニ干涉シ將ニ墨西  
哥ニ向テ進發セントセシ佛國ノ海陸軍ヲ制止セリ然リ  
而シテ歐洲各國ハ此ノ時ヨリシテ活眼ヲ開キ英國ノ真  
ノ位置内情ヲ觀察シ稍ヤク蔑視スルニ至レリ然レ其右  
ノ凌辱ハ尚ホ國辱ノ一端タルニ過キス久シカラステ  
陸續數多ノ國辱ヲ蒙ムレリ其事實ハ後章各々適當ノ場  
所ニ於テ詳カニ論陳スベシ其他ニ余輩ノ此處ニ記載ス  
ルヲ要スルノ事實アリ支レ斯ノ如キ許多國辱ノ原因ナ  
ル國步艱難財政困弊ノ情勢ハ自カラ愈々増進シ「ポール」  
紙幣交換建議案全舉行ノ時限ニ推移接近スルニ從テ其  
困難ノ情勢ハ益々緊急危險ニ加ヘリ而シテ右議案舉行  
ノ日即チ五月一日ハ今マ既ニ接迫セリ嗚呼同日ヨリ以  
向ハ五封度以下ノ銀行紙幣ヲ尽ク廢棄シ「カンニング」氏



ノ言ニ據レハ紙幣交換主義ノ紛論爭議ヲ永絶スルノ大  
難時ナリ斯ノ如ク大危険ニ渡ル五月一日ニ於テ佛軍ハ  
既ニ「セダミア」河ヲ渡リテ侵入セリ此ノ如ク大危険ノ時  
機ニ際シテ此ノ如キ外寇ノ警報アリシコトナレハ當時  
既ニ農業貿易ノ衰頽難法ニ付テ其回復ヲ懇求スル歎願  
書ノ夥シキ上進ニ困弊セシ執政者ノ恐怖スルハ固ヨリ  
當然ノ理ニシテ又々今將ニ好ミニ從ヒ其利息ヲ金銀ニ  
テ領收スルニ至ラントスルニ十七萬五千有餘ノ國債主  
及ヒ銀行者ニシテ今マ將ニ其一封度及ヒニ封度紙幣ヲ  
廢棄スルノミナラス其殘額ヲ正貨ニテ交換セサルヲ得  
サルモノノ戰慄周章セシハ又々怪シムニ足ラサルナリ  
然リ而シテ此危険ノ時機ヨリ醸生シタル奇怪ナル成果  
ノ記スヘキモノアリト雖凡余輩之レヲ第十三章ニ讓ラ

サルヲ得ス蓋シ十三章ハ則チ進テ右險害ノ機ニ達セシ  
時ノ財政ヲ説クモノナルカ故ナリ  
余輩ハ今マ本章ノ局ヲ結フ前ニ英國銀行カ一千八百十  
九年制定ノ紙幣交換條例ノ條款ニ依リ五封度以下ノ紙  
幣ヲ永絶センカ為メ先以テ施シタル預策ト其預策ノ穀  
物及ヒ屠肉等ノ價直上ニ及ホセシ影響トヲ茲ニ開陳ス  
ルヲ以テ適當ト信スルナリ蓋シ之レヲ茲ニ開陳スルト  
キハ後ニ継登セシ事實ヲ解スルニ容易ナルニミナラス  
次章ニ於テ農業貿易ノ零落困難ヲ愁訴スル歎願書ノ夥  
シク各地方ヨリ下院ニ輻湊スル非常ノ情勢ヲ觀ルモ自  
カラ當ニ然ルヘキノ理勢ヲ通曉シ未行紙幣交換條例ノ  
成果ナルヲ知り奇怪ト感スレコトナカルベシ嗚呼恐ル  
ヘキ哉誤謬法制ノ弊害タレヤ未々之レヲ實際ニ舉行セ



レニアラス唯々下院其議算ノ總同意ニ由テ傲然其決行  
 フ約束レ其期ニ至リ先言ヲ食マヌ必ラス之レヲ全ク實  
 地ニ舉行スベキ確誓セシニ過ナス聖書ニ依テ其必行ヲ  
 誓ヒシニアラス仮令背約スルモ法律上ノ刑罰ヲ受クル  
 モノニアラス而シテ未々其期ニ至ラスレテ其弊害ニ堪  
 ヘサルヲ見ルナリ左ノ表ハ即チ一千八百十九年二月ヨ  
 リ一千八百二十三年二月ニ至ル間ノ英國銀行紙幣流通  
 高及ヒ其割引高ヲ明示スルモノナリ

表

流通	封度	抵當	割引
「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ	「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ	「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ	「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ
一千八百二十年二月二十九日	一千八百十九年二月二十七日		
一七、七七一、四七〇 七、三五四、二三〇	二五、二六七、〇〇〇	二六、三五一、六一五 九、九九八、八八五	二六、一八七、四九九 二、七九六、二七〇
政府証券 私立銀行証券	政府証券 私立銀行証券	政府証券 私立銀行証券	政府証券 私立銀行証券

流通	封度	抵當	割引
「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ	「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ	「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ	「ポート」及「ホストゼル」 全五封度以下ノモノ
一千八百二十一年二月二十八日	一千八百二十二年二月二十八日	一千八百二十三年二月二十八日	
一六、七九四、九八〇 六、六八九、一三〇	一七、二九〇、五〇〇 一、三三四、八五〇	一七、七七一、四七〇 六、八二五、五〇〇	二二、四一五、一六八 四、四七二、三二二
政府証券 私立銀行証券	政府証券 私立銀行証券	政府証券 私立銀行証券	政府証券 私立銀行証券

此ノ表ニ據テ觀レトキハ一千八百十九年ヨリ一千八百  
 二十二年ニ至ル間ニ英國銀行其流通高ヲ減額スルコト  
 殆ント七百萬封度ニ達シ又々其間ニ諸商人ニ証券手形  
 等ノ割引高ヲ減少シテ九百萬封度ヲ四百萬封度トナセ



リ而シテ地方銀行ノ如キモ又々久シカラスシテ五封度以下ノ銀行紙幣ヲ廢棄セサルヲ得サルモノニシテ事既ニ緊急ナレハ自カラ英國銀行ノ處置ニ倣ヒリ其結果ハ忍テ金融閉塞レ後テ恐ルヘキ毒患ノ影響ヲ農業及ヒ貿易上ニ及ホセリ是レ讀者ノ容易ニ想像レ得ヘキ所ナリト信ス而シテ當時實際ノ情勢ヲ觀察スレハ右流通紙幣減少ヨリ物價ニ總下落ヲ惹起シ為メニ零落破産セシモ數千人ノ多キニ至レリ然レ氏苟モ當時物價下落ノ甚太ナルヲ見ルトキハ又々怪シムニ足ラサルナリ左ノ表ハ即テ穀物及ヒ屠肉ノ下落ヲ明示スルモノナリ

表

年	月	小麦(毎コトール)	羊肉(毎ストーン)八磅	牛肉(毎ストーン)八磅
志	志	志片	志片	志片

一千八百十九年	一月	六四	乃至	八二	五〇	乃至	六四	四〇	乃至	五〇
七月	五八	乃至	八〇	四六	乃至	五二	四六	乃至	五四	
一月	五四	乃至	七〇	三四	乃至	四四	三四	乃至	四八	
七月	五八	乃至	八一	四二	乃至	五二	三六	乃至	四六	
一月	四〇	乃至	六二	三〇	乃至	四〇	三二	乃至	四二	
七月	三六	乃至	六三	二二	乃至	三四	二八	乃至	三八	
一月	三〇	乃至	六六	二二	乃至	三二	二〇	乃至	三〇	
七月	三〇	乃至	五六	一一	乃至	二六	二〇	乃至	二一	
一月	三〇	乃至	五〇	二四	乃至	三〇	二四	乃至	三〇	
七月	四六	乃至	六七	二八	乃至	三六	二四	乃至	三〇	

右表中ノ價直ハ「マーク、レ」及ヒ「ス、ミ、ツ、ス、フ、エ、レ、ド」ノ物價ナレ氏地方ニ於テハ其下落尚ホ一層甚シカリシヲ知ル當時貿易品ノ如キモ亦々同レク多少ノ下落ヲ顯ハ



セリ例之ハ鉄ノ如キ每噸ニ付キ十二封度十志ナリシモ  
下落シテ每噸ハ封度十志トナレリ又タハバナ砂糖ノ價  
直ハ每本六十志ナリシモ下落シテ四十二志トナリ加  
ノ價直ハ每本一百五十八志ナリシモ下落シテ一百十志  
トナリ東印度棉花ノ價直ハ每磅ニ一志ハ片ナリシモ下  
落シテ九邊トナリ煙草ノ價直ハ每磅ニ一志一。片ナリシ  
モ下落シテ七片トナリ又タメ<sup>ル</sup>板ノ如キハ每一<sup>一</sup>荷  
ニ二十ニ封度ナリシモ下落シテ十七封度トナレリ此ノ  
如ク物價ノ總下落ヨリ農商一般ノ困難貧苦零落破産ヲ  
醸成レ後テ全國ヲ通シテ自カラ驚愕<sup>撥</sup>擾ノ慘状ヲ顯ハ  
スニ至レリ而シテ後テ終ニ國會ニ歎訴セシ一般困難ノ  
影響ト其事物非常ノ状勢ヨリ生シタル成呆トニ至テハ  
余輩之レフ次章ニ讓リ殊ニ之レヲ評說考究セントス



第十三章  
直ノ下落○上下一般ノ困弊○「チャトレス、エ、トム」  
其非常ノ論説○「ウエス  
テル」氏大ニ農業ノ困弊ニ関スル動議ヲ主張シテ  
封度紙幣ノ通用ヲ延期センカ為ニ小額紙幣及ヒ二  
議定ス○「ウエステル」氏精密ニ「セール」氏議案ノ真  
ノ成果ヲ確証ス○「アングレル」氏候西班牙ニ侵入シ  
テ其國憲ヲ顛覆ス○小額紙幣通用延期ノ成果○物  
價非常ノ騰貴○投機ノ事業○外國ニ貸付タル債金  
ノ巨額○「ロビンソン」氏ノ租稅卿○同氏暗愚謬誤○

大  
省

Blank page with red vertical lines.



貿易平均ヲ失シ随テ一千八百二十五年ノ恐慌ヲ来  
タス○「ロルド、リパポール」氏及ヒ「カンニング」氏ノ死  
去○「ゴードリッヂ」氏初テ合本銀行ヲ創立ス○「ウエ  
レリントン」氏ノ宰相○一千八百二十九年小額紙幣  
ヲ減却ス○田野放火○王黨權ヲ失ス

第十三章

抑モ一千八百二十二年ヨリ三年ニ至ル我カ上下兩院開  
場ノキニ當テ識者ノ眼ヲ以テ觀レハ實ニ奇々怪々ノ演  
劇ヲ政界上ニ現出シ来レリ乃チ一方ニハ我帝國議院ヲ  
組織スル上下兩院アリテ曩ニ五封度以下ノ銀行紙幣ヲ  
廢棄シ其殘額ヲ要求次第隨時ニ目方一「オンス」ニ付キ價  
直三封度十「セ志」邊半ノ割合ニテ金塊ヨリ鑄造シタル  
「ノウベリン」金貨ヲ以テ交換シ以テ紙幣交換主義ノ紛議

ヲ永絶セシト確誓セシ言ヲ踐マント勉メタリ而シテ又  
又他ノ一方ニ於テハ「ゴベツト」氏及ヒ其讀者アリテ炙肉  
鉄條ヲ掲ケ出シ以テ「シント、ロレンス」・悲談ヲ反復ス  
ルノ失敗ヲ受クルニアラサレハ右ノ大問題ニ付テ同氏  
所見凱旋ノ記功表トナシ之レヲ悠久ニ傳ヘント企圖セ  
リ然リト雖モ此時ニ至テハ往時「ゴベツト」氏嘗テ該政策  
ノ決シテ實際ニ舉行スベカラサルヲ痛論シ若シ此政策  
ニシテ行ハルハ「ゴトアテ」ハ自カラ嚴刑ヲ甘受セント  
先言セシ時代ト異ナリ該政策ノ到底行ハレサルヲ論  
スルモノ既ニ多ク獨リ「ゴベツト」氏ノミニアラサルナリ  
抑モ一千八百二十三年五月二日ノ接近スルニ從テ英國  
銀行及ヒ地方銀行ハ皆ナ自然ト漸次ニ其紙幣ノ流通高  
ヲ減少シ以テ預シメ要求次第隨時ニ金銀貨幣ニテ交換



レ且ツ小額紙幣ヲ引キ去ルハナリ時ニ應ヌル方畧ヲ勉  
メタリ而シテ斯ク紙幣流通高ノ總減額ヨリ惹起シタル  
物價ノ下落ハ余輩既ニ之レヲ前章ニ闡陳セリ故ニ今右  
物價ノ下落ヨリ全國ニ醸生シタル災害困難ノ影響ヲ觀  
察セントス  
抑モ當時物價下落ノ為メニ現出シタル困弊零落破産ハ  
國內一般ニシテ最モ地主商人ノ内ニ甚レトス就中地主  
ニシテ其所有ノ田畑ノ抵当地寡婦受用産分與産遺産  
屬セシモノハ其影響特ニ甚大ナリ蓋シ田畑ノ價直非常  
ニ下落セシヲ以テ之レヲ賣拂フモ其地代ハ稍ヤク其抵  
當ヲ收贖スルニ過キサルノ慘状ヲ見ルコト多シ故ニ其  
持主タルモノハ全ク其産ヲ失ヒ乞児トナルニ至レリ余  
親シク該政策ノ為メ此ノ不幸ヲ蒙ハリシ其一人ヲ知ル

其人タルヤ原ト余カ學友ニシテ巨萬ノ家産ヲ兼ケ續ケ  
リ但シ其産大半西印度ニテ起セシモノナリ既ニ成年ニ  
達シ其後見人ヨリ其産ヲ請取リシトキ七分五萬封度ニ  
下ラス此ニ於テ此人ハ其五萬封度ヲ以テ田畑ヲ買ヒ妻  
ヲ娶リ以テ生計ヲ営マント決シ殆ント一十八百十二年  
乃至十三年頃終ニハ八萬封度ニテ田地ヲ購買ス但シ其  
購買金ノ半額ハ其買ヒシ田畑ヲ抵當ニシテ借入レタル  
モノナリ然ルニ一十八百二十二年乃至二十三年ヲ過キ  
スレテ右抵當ヲ收贖シ利息ノ拂不足ヲ辨償センカ為メ  
其田地ヲ賣ラサルヲ得サルニ至リ終ニ之レヲ賣拂ヒシ  
ニ其價直既ニ下落セシカ故ニ一十八百十二年ニ於ケル  
價直ノ半額ニ過キサレハ到底一志モ此人ノ手ニ残ラサ  
ルニ至レリ嗚呼此人タルヤ尚ホ春秋ニ富ミシト雖氏性



質聰明伶俐ニシテ品行方正ナリ而シテ其交ハル所ノ人ハ高貴ニシテ皆ナ此人ニ善良ノ教訓ヲナレ輔佐ヲ與フルノ益友ナリ此ヲ以テ此人ニ過誤失錯ハアラサルニ避クヘカラサル破産ニ逢過シ妻子ト共ニ救ノベカラサル苦界ニ沈淪セリ斯民ヲシテ此極ニ至ラシムルモノハ抑モ誰カ過テナル乎特ニ議院ノ誤謬ナル法制ニ因由スルナリ夫レ苟モ議院ナルモノハ人民ヲ保護スルノ義務アルモノニアラスヤ然ルニ毒惡ノ法制ヲ立テ適々其法制ヨリ醸生スヘキ惡果ヲ預告セシモノアルモ之レヲ顧ミサルノミナラス却テ其人ヲ嗤笑シ終ニ斯民ヲシテ滔天ノ災害ヲ蒙ラシム豈ニ慨歎ニ堪ユベケヤ讀者ハ讀テ此ニ至リテ此ノ一事ハ實ニ過クルノ浮大ノ言ニアラサレハ非常例外ノ事實ナリシト想像スベシト雖モ決シテ

然ラス國內此レニ類スル实例固ヨリ少ナシトセサルナリ一千八百二十三年會議ヲ開キシトキニ當テ上下兩院ノ案上ハ難渋貧困ノ状ヲ具申スル歎願書ヲ積テ山ヲナセリ而シテ其歎願書全豹ノ一例トシテ余今マ毒惡ナル政策カ社會ノ安全幸福上ニ及ホセシ影響ヲ緊密ニ陳述セシ所ノ一歎願書ヲ舉テ之レヲ明示スベシ然レモ其詳細ヲ記スレハ甚々冗長ニ渉ルヲ以テ可成丈其大要ヲ撮摘セントス蓋シ是レ「ロルド」氏「スト」氏「下院」氏「出シ」氏「ヤール」氏「スタン」氏「ホー」氏「上院」氏「出シ」氏「ナ」氏「乃」氏「其歎願書ノ要旨ハ即テ左ノ如シ

第一

此歎願者ハ政府ヲ維持保存センカ為メ産稅ヲ收メ血稅ヲ納メタルハ其應報ニ生命財產ノ保護ヲ望ムノ權利アリ



リ然ルニ其保護ヲ得サルノミナラス却テ議院ノ法制ノ為メニ破産スルニ至ル事

第二

此歎願者ハ其困難ヲ以テ敢テ政府有心故造ノ惡政ニ由ルトスルニアラス唯メ之レヲ其過誤ノ政畧ニ歸スルモノトス然レモ政府其過ヲ改ムルニ憚カルコトナク而シテ久シク其過誤ヲ固執シ終ニ之レヲ邪惡ニ變スルコトナカラシコトヲ切望スル事

第三

此歎願者ノ破産ハ其他ノ數千万人ノ破産ト均シク正貨拂フ回復スル「ピール」議案ヨリ醸生セシモノナリ然リト雖氏之レカ為メ災害ヲ蒙ムルハ此歎願者ヨリ甚キモノハ蓋シ稀ナル事

第四

此歎願者及ヒ其父ハ原ト酒商ニシテ巨萬ノ資財ヲ作クレリ而シテ一千八百十一年及ヒ同シク十七年其資財ノ一部分ヲ以テ田畑ヲ購買セシ事

第五

右父子ハ即テ「ヒヤール」郡ニ於ケル「ノルグ」田畑ヲ六萬二千封度ニテ購買シ而シテ其田畑ヲ改良スル為メニ一萬封度ヲ用費シ合シテ七萬二千封度ヲ即セシ事

第六

一千八百十二年ニ於テ右父子ハ神學士「レヨシ、ア、トレシ」チヤルドト「ホント」リラスノ田畑ヲ買ヒ取ルノ約定ヲナシ其地代ニ六萬封度ヲ與フルヲ約束シ其約定金トシテ



五千五百五十五封度ヲ渡セリ而シテ其地券ニ付キ満足  
ナラサル義アリシヨリ双方ノ間ニ紛議ヲ生シ終ニ法庭  
ニ訴ヘタリシニ其詞訟久シク判決セズ遷延シテ一千八  
百十九年ニ至リ竟ニ判決シタル氏詞訟ハ右父子ノ失敗  
ナリ右田畑ノ購買金ニ利息ヲ加テ合計七萬一千九百五  
十七封度十九志五邊ヲ「トレン」テヤル「ド」ニ拂ハサルヲ得  
サルコト、ナリシ事

第七

右詞訟判決ニ至ル時ノ内ニ此歎願者父子商業ニ於テ甚  
シキ損失ヲ蒙ムリ、右地代金ヲ辨償スル能ハサルニ至レ  
リ故ニ「ノル」ゾウ「及ヒ」ボントリラス「ノ」兩田畑ヲ六萬五千  
封度ノ抵当トシテ「トレン」テヤル「ド」ニ質入セシ事

第八

右詞訟ノ判決シタル一千八百十九年以後此歎願者父子  
ハ一千八百二十一年ニ至ル迄ニ負債ノ償還ニ五千封度  
ヲ拂セ利息ニ八千封度ヲ拂渡セシ事

第九

右詞訟判決ノ一千八百十九年ヨリ一千八百二十一年ニ  
至ル迄ニ其田畑ノ收入ハ地稅木材ヲ合シテ三千四百十  
封度ヲ收メシ事

第十

一千八百二十一年七月ニ於テ終ニ右二田畑ヲ賣拂ニ出  
セリ然リト雖モ其地代金ハ其抵當金額ヲ償フニ足ラサ  
ルヘキ事

第十一

一千八百二十一年ニ於テ此歎願者及ヒ其父ハ忽チ破産



者トナリシ事

第十二

然ルニ「トレンチヤルド」ハ同年終ニ二田畑ヲ已カ所有ト  
ナシ該典賃ノ收贖ヲ禁スルノ公判ヲ要請セリ

第十三

此歎願者父子ハ斯ノ如ク實ニ一萬八千五百五十五封度  
ヲ「トレンチヤルド」ニ拂渡シ而シテ其田畑ヨリ收~~改~~シタ  
ル高ハ僅々三千四百十封度ニ過キサリシナリ然ルニ今  
マ將ニ殆ント「ポントリラス」及セ「ノルゾー」ノ二田畑ヲ失  
ハントス「ノルゾー」ノ田畑ニハ原ト七萬二千封度ヲ却セ  
シ事

第十四

右ニ反對シテ「トレンチヤルド」ハ現ニ一萬八千五百五十

五封度ノ金額ヲ請取リ之レニ如ヘテ又メ一千八百十二  
年ヨリ一千八百十九年ニ至ル間「ポントリラス」田畑ノ地  
税ヲ全ク收入セシ事且ツ其負債六萬封度ノ代リニ今マ  
將ニ一千八百二十年二月ヨリノ地税ノ残額ト共ニ田畑  
ニケ所ヲ所有セルトスル事

第十五

此歎願者父子ノ代理人ハ大審院ニ訴テ右田畑ノ所有ヲ  
許ストナカラシメテ哀願ス何ントナレハ若シ果シテ其  
領收ヲ許サルハコトアラハ其成果ハ即チ尤ノ如クナル  
カ故ナリ「トレンチヤルド」氏ハ一千八百二十年及ヒ二十  
一年ノ二箇年ヲ除クノ外尽ク「ポントリラス」田畑ノ地税  
及ヒ贏利ヲ收得スヘシ且ツ該田畑ニ於ケル材木ノ收入  
一千四百七十封度及ヒ此歎願者ヨリ拂入タル現金額一



萬八千五百五十五封度ヲ收メ而シテ原ト其所有地ナル  
ボントリテス領收スルニ加ヘテ又々七萬二千封度ヲ却  
セシ「ノルグ」ノ田畑ヲ所有スルニ至ルベキ事

第十六

此歎願者父子ハ「ミツドルセキス」エセキス及ヒ「ハム」  
ヤ」ニ於テ原ト三萬六千封度價直ノ田畑ヲ有セシト雖  
モ此ノ田畑ハ既ニ一萬二千封度ニテ賣拂ヒシ事其田畑  
ニ於テ損害ヲ蒙ルコト既ニ斯ノ如キニ商業ニ於テ又  
々非常ノ損害ヲ受テ終ニ破産者タルノ苦境ニ陥落セシ  
事父ハ一千八百二十二年憂愁煩悶ノ甚シキヨリ終ニ鬼  
籍ニ上リシ事今ヤ此歎願者ハ貧困難・逼迫シ自己ノ  
身モ猶ホ且ツ糊口ニ困ム況ンヤ自己ノ兒七人兄弟ノ兒  
十人姉妹ノ兒七人アリテ皆ナ其生活ヲ此歎願者ニ依頼

スル事

第十七

此歎願者ノ困窮前書ノ始末ナルヲ以テ敢テ右ノ契約及  
ヒ之レニ均シキ諸契約ノ公平正當ノ裁判アラシコトヲ  
哀願スル事

抑モ此歎願書タルヤ「ミツドルセキス」郡「チスウ」  
於ケル「チャーレス、アンドンリユウ、トムソン」氏ノ出セシモ  
ノニシテ苟モ仁義ノ良心ヲ具スル人ハ之レヲ一讀スレ  
ハ必ラス慷慨悲憤腹腸ヲ寸断スルノ想ヲナスベシト信  
ス而シテ「リカルド」氏「ピール」氏及ヒ上下兩院ノ議員ハ之  
レヲ讀ミ果シテ何等ノ感覺ヲ生シ来リシヤ余今々之レ  
ヲ明言スル能ハスト雖凡人民皆ナ其困難愁苦ノ甚シキ  
ヨリ不平ヲ鳴ラシ不憚ヲ抱キ全國ヲ通シテ輿論囂々世

藏書



議噴々トシテ頗ブル擾乱ノ情勢ヲ現シ歎願建白ハ日々  
議院ニ輻集セリ此ニ於テ終ニエセキス邦ノ代議士聰  
明伶俐ナルウエストルン氏ヲ將ニ叛乱ヲ壞裂シ騷動  
ヲ醸成セントスル國內人民ノ難澁愁苦ヲ調査スヘキ動  
議ヲ起シ口ヲ極テ之レヲ痛論セリ而シテ政府ノ諸大臣  
ノ如キハ皆ナ此ノ論ニ服シタルニ地主社會ヨリ出テ  
ル議員ハ皆ナ該動議ヲ讚成シ以テ公私契約(無論負債ノ  
契約ヲ含ム)ノ公平正當ナル裁判ヲ得ント決心公論シ  
ルヲ以テ今マ容易ニ該動議ヲ拒絶スル能ハス故ニ其可  
否討論ニ三夜乃至四夜ヲ費ヤスノ後チ稍ヤク之レヲ拒  
絶セリ然ルト雖モ右動議拒絶ノ決議タルヤ實地殆ント  
見ル何トナレハ討論ノ末上下兩院ハ密ニ一個ノ短條例

ヲ設ケテ十一箇年間一封印度及ヒニ封印度紙幣ノ流通延期  
上下兩院ノ妄想ヲ議決スルノ已ムヲ得サルニ至リレカ故  
ナリ斯ノ如クニシテ「ビ」議案決議條例中小額紙幣廢  
絶ノ目ヲ改正シ而シテ其他正貨拂等ノ條目ニ至テハ原  
案ノ儘ニテ全ク舉行セシト雖モ尚ホ「コ」氏ノ預報  
先見ハ真ニ實際ノ情勢ニ的中セリ何トナレハ小額紙幣  
ヲ廢絶スルコトナキモ該條例ノ實地ニ流毒シタルハ余  
輩之レヲ直チニ開陳スベレ一個ノ廢法ニ起ユルコト遠  
ク為ニ財政マ策ヲ驅テ一層危殆ノ域ニ近接セシメ其滅  
亡ヲ免カル、ノ生路ヲ大ニ狭小ニセシカ故ナリ  
斯ノ如クハ紙幣ノ流通ヲ延期シタルヨリ國人殊ニ地方  
銀行者及ヒ上下兩院ハ暗愚無智ノ極右流通延期ヲ以テ  
嘗テ「カン」ニング氏ノ企望セシ所ト事異ナレモ均シク紙



幣主義ノ紛議ヲ永絶スルモノナリト妄想セリ之レヲ約  
言スレハ十一箇年間紙幣流通ノ延期ヲ以テ一大延期ヲ  
意味スルモノト誤考セリ故一地方銀行者ハ恰モ當時事  
物ノ情勢ヲ永遠無窮ニ接續スルモノト思惟セシカ如ク  
皆ナ再々多額ノ紙幣ヲ発行シ後ニ非常ノ艱難災害ニ逢  
過スルヲ察スル能ハサリレハ豈ニ憐ムヘキニアラスヤ  
特リ英國銀行ハ小額紙幣流通延期條例アリト雖モ幸ニ  
其災害ヲ免ルヲ得タリ

一千八百十九年制定ノ毒害不正ナル通貨條例ノ惡果ヲ  
免カレシカ為メ議院右ノ如キ至愚ノ政畧ヲ施セルヨリ  
シテ發生シタル數多ノ愛狀ヲ觀察スル前ニ余輩ハ先ツ  
「ウヰストルン」氏ノ農業調査委員撰定動議ニ係ル論說ノ  
一斑ヲ記セサルヲ得ス何トナレハ該論說タルヤ詳カニ

該條例ノ弊害ヲ證明スルノミナラス「リカルド」及ヒ其黨  
ノ持論ニ基テ考究スルモ尚ホ其弊害慘毒ノ甚シキコト  
ヲ明示スルカ故ニ之レヲ黙々ニ付スル能ハサルナリ抑  
モ當時他ノ識者ト均シク「エセツキス」郡ノ代議士「ウヰス  
トルン」氏明カニ紙幣ノ下落ヲ表明スル正真秤量タリシ  
モノハ穀物ノ平均價直ニシテ決シテ一十七百九十七年  
ヨリ一千八百十六年ニ至ル迄英國ニ於テ需要多カラサ  
ル商品ノ一種タリシ金塊ノ價格ニアラサルコトヲ明證  
セリ然リ而シテ今一步ヲ譲リ論者ノ持論ニ從テ考究ス  
ルモ尚ホ收稅ハ一千八百十九年以來其呼高ノ減セシニ  
拘ハラス其實ハ同年以來増カシ一千八百十年一千八百  
十五年及ヒ一千八百十六年ヲ除クノ外佛國戰爭及ヒ銀  
行紙幣交換禁止時限各年(但シ一千八百九年以後)ノ歲



収税額ニ比シテ稍ヤ超過スルヲ開示セリ乃チ之レヲ開示スルニ左ノ明細表ヲ掲ケテ其事實ヲ確證セリ。

年 紀	封度		収 税 額	通用金貨ノ額數
	封度、志、片	造幣局價直ノ差 百分一ノ割		
一千八百〇九年	四一〇・九	一分六分ト	七一、八八七、〇〇〇	六〇、一四五、〇〇〇
一千八百一十年	四五〇	三分一ト	七四、八一五、〇〇〇	六八、一〇六、〇〇〇
一千八百一十一年	四二七・一	二分四分ト	七三、六二一、〇〇〇	五五、五八三、〇〇〇
一千八百一十二年	五一四	三割	七三、七〇七、〇〇〇	五、五九五、〇〇〇
一千八百一十二年九月ヨリ 同年十二月マデ	五八・〇	三分八分ト	八一、七四五、〇〇〇	五二、二三六、〇〇〇
一千八百一十三年	五六二	三分六分ト	八三、七二六、〇〇〇	五八、三三三、〇〇〇
一千八百一十三年十一月ヨリ 一千八百一十三年三月マデ	五一〇	四割一分		
一千八百一十四年	五一八	三分一ト		

一千八百一十五年	四三九	一分八分ト	八八、三九四、〇〇〇	六六、六九八、〇〇〇
一千八百一十六年	四〇〇	二分半	七三、九〇九、〇〇〇	七二、〇六二、〇〇〇
一千八百一十六年九月ヨリ 同年十月マデ	三八六	一分以下		
一千八百一十七年	四〇〇	二分半	五八、七五七、〇〇〇	五七、二五九、〇〇〇
一千八百一十八年	四一五	五分	五九、三九一、〇〇〇	五六、〇二五、〇〇〇
一千八百一十九年二月マデ	四三〇	六分ト 三分一	五八、二八八、〇〇〇	五四、五九七、〇〇〇
一千八百二十年	三一七・一		五九、八一三、〇〇〇	五九、八一三、〇〇〇
一千八百二十一年	三七一・一		六一、〇〇〇、〇〇〇	六一、〇〇〇、〇〇〇

上表ニ據テ以テ一千八百一十九年ノ通貨議案ハ之レヲ建  
議セシ人々ノ持論ニ從テ測算スルモ假令ヒ之レカ為メ  
後來ノ収税ヲシテ名ハ輕減スルモ其實ハ佛國戰爭時限  
ノ平均収税高ニ超過スルコト遠キヲ證スルニ足ルナリ  
然リト雖モ今マ若シ穀物ノ價直ヲ以テ紙幣ノ下落ヲ秤



量シ一千八百十九年以往一千七百九十三年ニ至ル穀物ノ價直ト小麥ノ收穫多クシテ穀津ヲシテ實際ニ其功用ヲ失ハシムルニ至リシ一千八百十九年以來ノ價直トヲ比較シテ測算スルトキハ則チ一千八百十五年ノ收税額八千八百三十九萬四千封度ハ其價直「セル」議案ニ於ケル通貨ノ凡ソ四千萬封度ニ過キサルベレ故ニ吾人若シ此ノ理由ヲ觀察スルトキハ則チ該議案ヲ實地ニ舉行セント試ミタルヨリ從テ社會ノ衰頹ヲ惹起シタルコトノ當然ニシテ復々怪ムニ足ラサルヲ知ルヘキナリ夫レ右衰頹ノ潮勢ハ其盛ナルヤ百方之レヲ停止セントスルニ拘ハラス一千八百十九年以來決シテ間休セサリシヲ見ル就中農業貿易ノ困難衰頹ニ至リテハ唯々紙幣ノ過度ニ發行シタル一千八百二十四年及ヒ一千八百三十六年

ヲ除クノ外特ニ甚シキヲ見ル嗚呼斯ノ如ク頻リニ衰運ニ歸向スルコトアラハ英國ヲシテ終ニ不測ノ深淵ニ沈淪セシムルニ至ラサレハ止マサルベシ  
余輩ハ此ヨリ議院ノ一千八百二十三年ニ於テ小額紙幣流通延期條例ヲ議定シテ「セル」議案ノ思結果ヲ免カレント企圖シタル政畧ノ影響ヲ觀察セントス抑モ該延期條例ヲ實地ニ舉行セシヤ否ヤ公衆殊ニ無智ノ人民ハ焦熱ノ苦域ヲ脱シテ樂土ニ入ルノ思想ヲナシ就中地主農夫銀行者商人船主及ヒ商賈ハ皆ナ歡喜雀躍シテ妖雲全ク散シ再ヒ蝕陰没落スヘカラサル國家繁榮隆盛ノ天日ヲ見ルト自信スルヲミナラズ相互ニ祝賀スルニ至レリ然レハ斯ノ如キ「狂」愚ナル「忘」信ノ成果ハ久シカラズシテ其非ヲ知ルニ至レリ地方銀行ハ濫ヲニ新紙幣ヲ多ク發

蔵省



行レ社會ノ人氣大ニ變化シ實着ノ氣風ハ蕩然トシテ地  
ヲ掃ヒ人々投機博奕ヲ以テ事トシ空中ニ樓閣ノ架スル  
ト一般ノ空計ヲ冀望シ實ニ古來見ル<sup>レ</sup>稀ナル狂乱ノ氣  
勢ヲ顯出シ恰モ南海泡沫ノ狂状再々社會ニ流行スルカ  
如シ然リ<sup>而</sup>シテ紙幣ノ發行過度ニシテ通貨ノ流通高増進  
満溢スルニ從テ物價騰貴スルニ從テ投機博奕ノ氣風愈  
々盛シナリ此ニ於テ國內百事ノ情勢ハ奇怪ナル大泡沫  
ノ膨脹スルカ如ク人民ハ病人ノ奇異ナル佳夢ヲ結ヒ以  
テ喜悦スルノ狀況ニ似タリ人々皆ナ國家繁榮盛ノ樂  
世ナリト空想シ曩ニ佛國將「アングロレム」候ノ西班牙ニ  
侵入シ而シテ「カシズ」ヲ畧シタルヨリ蒙<sup>ル</sup>リシ國辱ヲモ  
忘却スルニ至レリ嗚呼國內ノ事業一トシテ投機博奕ニ  
アラサルハナシ狂乱ノ氣勢甚シキヤ當時僅々識者ノ眼

ヲ以テ見レハ此ノ國ハ一個ノ大癲狂院ニ異ナラサリ<sup>レ</sup>  
ト云フモ敢テ過言ニアラサルベシト信ス  
往時ヨリ經濟學者常ニ好テ英國銀行ノ事務取扱方ヲ非  
難セシカ此ノ時ニ至リテ支配人ノ處置ヲ非難スルコト  
特ニ甚シカリシヲ見ル然リト雖<sup>モ</sup>其非難タルヤ余ノ意  
見ニ由レハ大ニ其正鵠ヲ失シタルモノト云ハサルヲ得  
ス抑モ當時英國銀行ノ事務取扱上ニ於テ其功<sup>ノ</sup>少ナシト  
セス第一小額紙幣流通延期條例アリト雖<sup>モ</sup>之<sup>レ</sup>カ為メ  
一封度ニ封度紙幣ヲ發行スルコトナカリシハ實ニ賞讃  
スハキニアラスヤ吾人今マ該銀行ノ紙幣流通高計算表  
ヲ觀ルトキハ則テ當時全國ニ流行シタル投機博奕ノ惡  
俗ヲ煽動シタルコトナキヲ證明スルヲ得ベシ

英國銀行流通高表

大  
裁  
省



年 紀

封 度

一千八百二十三年八月三十日	一九、二三一、二四〇
一千八百二十四年二月二十八日	一九、七三六、九九〇
一千八百二十四年八月三十一日	二〇、一三二、一二〇
一千八百二十五年二月二十八日	二〇、七五三、七六〇
一千八百二十五年八月三十一日	一九、三九八、八四〇

此ノ表ニ據テ觀ルトキハ此ノ時代ニ發起シタル奇怪ナル投機博奕ヲ大ニ煽動スルコトナカリシヤ明カナリ且ツ英國銀行ハ當時速ニ危険ノ情勢ヲ悟リ大ニ奮テ財主地方銀行者及ヒ各種投機者流ノ狂乱ナル舉動ニ干涉シ之レヲ抑制シタルノ功アルハ確乎トシテ疑ヲ容レサルナリ然リト雖モ當時此ノ危険ノ情勢ヲ悟リシモノハ僅々ノ識者ニ止マリ後令ヒ之レヲ悟ルモ時機既ニ過キ又

如何トモスル能ハサルニ至リテ覺知スルニ過キス夫レ事ノコトニ至ルマテ確乎タル先見ノ立タサリシコトニ至テハ銀行支配人モ罪ナシト言ヒ難キニ似タリ然レモ時ノ大臣ノ先見ナキハ尚ホ此ヨリ甚シ譬ハ支配人眇目タルニ過キスト雖モ當時執政者ハ恰モ全盲メルカ如シ夫レ政府モ猶ホ且ツ先見スル能ハサリシモノナルニ遠慮ナキヲ以テ支配人ヲ責ムルハ之レヲ酷ト云ハサルヲ得サルナリ況ンヤ英國銀行ノ謹慎シ取テ試ミサリシモノニシテ財主金貸者地方銀行者市街割引者ノ濫リニ實施セシコトアルニ於テフヤ此期限ニ當テ此輩ノ投機博奕ヲ事トシタルヤ實ニ今日ニ在テ之レヲ信スル能ハサルカ如シ真ニ其狂乱ナル氣勢ノ盛ナルハ南海泡沫ノ時以來未タ嘗テ觀サルノ狀況ナリ一千八百二十四年或



滑稽者アリ滑稽ニ忠告ヲ加ヘテ南海泡沫ノ顛末ヲ記ス  
 ル雜誌ヲ發兌シ以テ此時ノ投機者流ニ諷諫セリト雖モ  
 入コレヲ悟ラス終ニ其功ナカリシナリ然レモ此ノ古今  
 惡風流行ノ比較ハ實ニ相適應シテ至極妙趣ナリト云フ  
 モ決シテ浮大ノ言ニアラサルナリ抑モ當時投機博奕ノ  
 氣風タルヤ採鑛會社保險會社建築會社船舶會社殖民會  
 社鐵道會社洗濯會社及ヒ其他ノ形跡ニ頭ハレテ社會ニ  
 蔓延漲溢シ其事情極メテ多端ニシテ其詳細ニ至リテハ  
 此ノ理財史ノ如キ小冊ノ能ク盡シ得ハキニアラス然リ  
 ト雖モ左ノ要畧ハ最モ其確實ノ事實トシテ發兌セラレ  
 タルモノナリ就中外國ニ貸附ニ係ルモノハ英國銀行免  
 狀ノ秘密調査委員ノ調査ニ附シタルモノナレハ概シテ  
 或ハ確實ナラント信ス其他ノ書載ハ其事實ニ疑ハシキ

コト少ナカラス

英國ニ於テ約定シタル外國貸附ノ一覽表(※ノ印ヲ  
 附スル國ハ皆ナ常ニ其利息分配金ヲ支辨スル國ト  
 知ルベシ)

國名	金額	封度	年紀	貸附者
奧地利	※	二、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十三年	ロツシヤルド
白耳義	※	二、〇〇〇、〇〇〇	一千八百三十二年	同上
巴西	※	三、二〇〇、〇〇〇	一千八百二十四年	ウキルソン會社
同上	※	二、〇〇〇、〇〇〇	一千八百二十五年	ロツシヤルド
同上	※	八〇〇、〇〇〇	一千八百二十九年	ラシヤド及ウキルソン
ビュノス、エーリス		一、〇〇〇、〇〇〇	一千八百二十四年	バーリグ會社
智利		一、〇〇〇、〇〇〇	一千八百二十二年	ハルレット會社
哥倫比亞		二、〇〇〇、〇〇〇	一千八百二十二年	バーリグ會社



全上	四、七五〇、〇〇〇	一千八百二十四年	ゴールドスミッド會社
丁抹	五、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十五年	ウヰルソン會社
希臘	八〇〇、〇〇〇	一千八百二十四年	ローナン會社
全上	二、〇〇〇、〇〇〇	一千八百二十五年	リカルド會社
キユアテマラ	一、四二八、五七一	一千八百二十五年	ポールス會社
カンヂユルビヤウ	六〇〇、〇〇〇	一千八百二十五年	エラド、ジアン
墨西哥	三、二〇〇、〇〇〇	一千八百二十四年	ゴールドスミッド會社
全上	三、三〇〇、〇〇〇	一千八百二十五年	バルクレイ會社
ニーポリタン	二、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十四年	ロツシャルド
普魯士	五、〇〇〇、〇〇〇	一千八百十八年	全上
全上	三、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十二年	全上
葡萄牙	一、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十三年	ゴールドスミッド會社
白露	四、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十二年	フライス會社

全上	七五〇、〇〇〇	一千八百二十四年	全上
全上	六、六〇〇、〇〇〇	一千八百二十五年	全上
露	三、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十二年	ロツシャルド
西班牙	一、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十一年	ハルドヤント
全上	一、五〇〇、〇〇〇	一千八百二十三年	カンベル社

此ノ表ニ據テ觀ルトキハ總テ外國人ニ貸附タル二十六種ノ債金アリ而シテ其合計ハ五千五百七十九萬四千六百七十一封度ニシテ其内十八種ハ一千八百二十三年ニ十四年二十五年ニ貸附タルモノナリ然リ而シテ右二十六年種貸附金ノ内常ニ利息ヲ支辨スルモノハ僅々十種ニシテ殘ル十六種ハ全ク損失タルカ如シ余輩若シ之レノ誓考スルトキハ當時狂乱ナル愚俗ノ流行シタルヨリ此ノ博奕上ニ破産損害ノ大ナルヲ理會スルニ容易ナルベ



レ而シテ當時政府ニ於テ大権ヲ有セシ「カンニング」氏ノ如キハ即チ此ノ損害破産ヲ惹起セシモノ、巨魁アリシヲ見ル蓋シ同氏ハ佛人ノ西班牙ニ侵入シタルヲ間接ニ復讐センカ為メ原下西班牙領ニシテ今叛シタル殖民地ノ獨立ヲ是認センコトヲ議院ニ助言セリ之レカ為メ墨西哥白露「コロムビヤ」等皆ナ獨立シテ共和國トナリ而シテ其國費ヲ支辨スルノ金ヲ英國ヨリ貸附クルノ政策ヲ起スニ至レリ而シテ當時我國人多ク矇昧ニシテ結局ノ利害ヲ察スル能ハス此誤謬損害ノ政策ヲ以テ良策ト思惟シ之レカ為メ墨西哥白露ノ金銀皆ナ我國ニ流入スベシト妄想シ而シテカンニング氏ノ如キハ其政策ノ建議者ナリシヲ以テ其像ヲ彫刻シ之レヲ議院ノ戶外ニ建テ其功ヲ表賞セリ然レモ該政策ノ成果ハ鹵莽不利ナル投

機博奕ノ演劇ヲ惹起シ來リ就中貸借ノ博奕ノ如キハ銀塊ヲ自國ニ流入スルノ方畧トハナラスシテ後チ却テ大英國ヨリ右諸國ヘ巨額ノ銀ヲ送出ス（余輩後チ直チニ之レヲ聞示スベシ）原由トハナレリ當時貸借ノ投機博奕ニ付テハ以上論スル所ニテ其狂乱奇怪ノ情勢ヲ知ルニ十分ナリト信ス故ニ余輩ハ今進テ他ノ投機博奕ノ事業ニ論及セントス抑モ一千八百二十三年迄ハ此ノ國ニ存立セル各種ノ會社左ノ數ニ過キサリシナリ

- 掘割會社 六三
- ドック會社 七
- 保險會社 二五
- 河水會社 一六



橋梁會社			四
瓦斯會社			二七
道路會社			七
雜種ノ諸會社			七
合計			一五六
左ノ表ハ一千八百二十三年以來ニ設立シタル新會社ト 其會社事業ノ為メ募集シタル資本金ノ呼額トヲ明示ス ルモノナリ			
社名	箇數	資本金	封度
採礦會社	七四	三八、三七〇、〇〇〇	
瓦斯會社	二九	一二、〇七七、〇〇〇	
保險會社	二〇	三五、八二〇、〇〇〇	
インシュアランス會社	二六	五二、六〇〇、〇〇〇	

鐵道及掘割會社	五四	四四、〇五一、〇〇〇
蒸氣會社	六七	八五、五五五、〇〇〇
貿易會社	一一	一〇、四五〇、〇〇〇
建築會社	二六	一三、七八一、〇〇〇
食物會社	二三	八三六、〇〇〇
雜種ノ會社	二〇二	二四八、一〇九、六〇〇
合計	五三三	四四一、六四九、六〇〇

此ノ非常ナル書載ノ果レテ精密確實ナルヤ余之レノ保  
証スル能ハスト雖氏一千八百二十五年ニ至テハ既ニ上  
下兩院ノ議員中卓識ノ人々ハ皆ナ斯ノ如ク各種ノ投機  
博奕ノ愚風俗ヨリ必ラス發起スヘキ弊害ヲ明言シ何レ  
ノ地方ヲ問ハス時ノ実勢ヲ知ル有識者ノ皆ナ將來ノ結  
果ヲ痛論スルモノアリテ現ハシタルハ疑ヲ容レサルナ



リ然リト雖氏當時ノ執政者暗愚矇昧ニシテ之レヲ悟ル  
 コトナク識者ノ諷諫モ無益ニ屬セリ嗚呼被治者固ヨリ  
 罪アリト雖氏主治者ノ罪ハ猶ホ之レヨリ甚シト云ハサ  
 ルヲ得ンヤ一千八百二十四年議院開會ノ時ニ當テ當時  
 租<sup>ノ</sup>稅<sup>ノ</sup>卿<sup>ノ</sup>タリシ淺識無智ナル「フレデリック、ロビンソン」  
 氏ノ如キハ愚モ亦々甚シク此ノ時ニ於ル物價不當ノ騰  
 貴ヲ以テ我々國ノ繁榮ト唱ヘ其比類ナキ繁榮ヲ以テ政  
 治ノ精巧完全ナルニ由ルモノト誇稱スルニ至レリ嗚呼  
 理財者ノ誇言其當ヲ失スルモノ多シト雖氏此ノ賤愚ナ  
 ル識者ナル「コベツト」氏ハ之レヲ聞クヤ忽テ書ヲ作テ繁  
 榮<sup>ノ</sup>隆盛<sup>ノ</sup>「ロビンソン」氏ニ送リ痛ノ豊富繁榮ノ夢想久シカ  
 ラスレテ消散スヘキヲ先言シ且ツ此ノ時ヨリ十八箇月

ノ内テ諸銀行破産瓦解シ同氏カ所謂ル繁榮隆盛ハ之レ  
 ト共ニ消盡スヘキコトヲ保証セリ然リト雖氏猶ホ少シ  
 モ此ノ先言預報ヲ以テ意トセス人民及ビ主治者共ニ益  
 ヲ進テ投機博奕ヲ事トシ豊富繁榮ノ空想ヲ抱キ獨リ自  
 タラ慶賀雀躍スルノミナリシ  
 一千八百二十五年ノ秋ニ至リ災害ノ患兆稍ヤク発起ス  
 ルニ至レリ抑モ一千八百二十二年ニ於テ小麦ノ價直ハ  
 屠肉ト共ニ大ニ下落レメリニ今マ急ニ騰貴セリ乃チ  
 左表ニ由テ其騰貴明示スルヲ得ヘレ

表

年 紀	小麦(毎コートル)	牛肉(毎ストーン)	羊肉(毎ストーン) 八磅
一千八百二十二年 一月	三〇	六六	二
至	志	志	志
六六	志	志	志
二〇	志	志	志
至	志	志	志
三〇	志	志	志
二	志	志	志
至	志	志	志
三	志	志	志
二	志	志	志



全七月	一千八百二十三年一月	全七月	一千八百二十四年一月	全七月	一千八百二十五年一月	全七月
三〇	三〇	四六	四六	四六	五六	五六
至	至	至	至	至	至	至
五六	五〇	六七	七五	七六	七六	七六
二	二	二	三	四	四	四
〇	四	四	〇	〇	〇	〇
至	三	三	四	五	五	五
二	二	二	三	四	四	四
一〇	二	二	三	四	四	四
一〇	四	八	〇	〇	〇	〇
至	至	至	至	至	至	至
二	三	三	三	四	五	五
六	〇	六	一〇	〇	〇	〇

銀行紙幣流通高ノ増殖ハ獨リ小麦屠肉ノ價直ヲ騰貴スルノミナラス又々他ノ凡百ノ物價ヲ騰貴セリツトク氏著ス所ノ一千八百二十六年癸元ノ通貨情況論ニ據レハ右數年間ニ國內通貨ノ増額ハ殆ニト五割ニ下ラスト夫レ此ノ増額ノ結果ハ決シテ避クベカラサルナリ乃チツトク氏云ク紙幣ノ増額ヨリ諸物品ノ漸次騰貴スルニ當

テヤ投機者及ヒ牙保タルモノハ皆ナリニ物價表ノ點視スルヲ其日ノ業トスルニ至レリ是レ蓋シ未々價直ノ騰貴セサリシ各物品ヲ見出シ之レヲ以テ騰貴セシメント企圖スルニ由ルナリ故ニ當時其風潮ニ感化セラレサル人アリ若此ノ物品ハ何故ニ騰貴セシヤト問ヒシハハ自餘ノ各物品皆ナ騰貴セリ故ニ此ノ物品モ從テ騰貴セサルヲ得スト答ヘレナリ抑モ外面ノ繁榮利益ニ盡惑セラレ投機博奕ヲ試ミタルコトノ甚シキヤ近代未々曾テ其例ヲ見サルナリ何トナレハ世務ヲ止メテ隱居人退陰官吏寡婦及ヒ細産ノ單身婦ニ至ル迄其歳入金若シクハ貯藏金ヲ各種ノ投機博奕事業ニ投シ危機ヲ踐ミ損失ノ外決シテ得ヘカラサルノ利益ヲ競争スルノ情勢ハ當時此ノ事ニ并フ下サ、ル識者ヲシテ驚キ且ツ歎セシメタ



ルヤ疑ヲ容レサルナリ  
 斯ノ如ク投機博奕ヲ事トスルノ氣勢盛ナルニ從テ日ニ  
 紙幣ノ流通高増進シ流通高増進スルニ從テ穀物ハ騰貴  
 スルハ固ヨリ論ヲ待タス又々一切物品ノ價直ヲ多少騰  
 貴セリ貿易品ハ概シテ市價ノ逐次ニ騰貴シタルヨリ輸  
 入非常ニ増加シ為メニ又々稍ヤ價直ノ騰貴ヲ制シタリ  
 ト雖モ穀物ニ至リテハ穀律アリテ其輸入ヲ禁スルカ故  
 ニ紙幣ノ下落ヨリ生スルノ騰貴ハ當テ其底止スル所ヲ  
 知ラサルカ如シ左表ハ則テ諸商品騰貴ノ比例ヲ明示ス  
 ルモノナリ但シ特リ金塊ノ價直ハ法律ヲ以テ強テ造幣  
 局價直ヲ維持セシメタリ

表 (借庫ニ於ケル貨物價格ノ比較)

一十八百二十三年 一十八百二十五年

錫	鉄	藍靛東印度産	花粉 (ヤルモノス産) 每「ストーン」	棉花 (ベンガル及シエラット産)	棉花 (ゼオルジア産)	咖啡 (シント、ドミンゴ産)	咖啡 (英國産)	呀囉蟲 (西班牙産)	羊肉	牛肉	硫黄粗	
全	每噸	每磅	十四磅	每磅	每磅	全	每木	全	全	每磅	每噸	封度
二二	六	〇	〇	〇	〇	四	六	一	〇	〇	六	志
一〇	〇	九	一	〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	一〇	片
〇	〇	九	八	半六	半八	〇	〇	〇	四	半四	〇	封度
三〇	一三	〇	〇	〇	〇	四	六	一	〇	〇	一〇	志
一〇	〇	二六	二	一	八	一三	六	〇	〇	〇	〇	片
〇	〇	〇	六	半下	半六	〇	〇	〇	半	八	〇	



糖 水酒	(ヤマイカ産)	毎「カレン」	〇	〇	二	九	〇	三	四
全上ノ工等品		毎本	〇	三	二	〇	〇	三	八
硝石(東印度産)		毎本	一	四	〇	一	六	〇	〇
香料、肉桂		毎本	〇	六	八	〇	一	三	六
全 荳蔻花		全	〇	五	二	〇	〇	八	〇
全 肉荳蔻		全	〇	三	一	〇	〇	二	〇
胡椒(黒)		全	〇	〇	五	〇	〇	〇	九
下等小麦(一千八百二十四年)		毎噸	二〇	一〇	〇	四	一五	〇	〇
糖		毎本	一	一〇	〇	二	五	二	〇
全 (ホワイト、ハッソナ産)		全	二	四	〇	二	七	〇	〇
生糸		毎磅	〇	二	六	〇	七	〇	〇
全 (支那産)		全	一	〇	〇	一	八	〇	〇
獸脂		毎本	一	二	〇	二	三	〇	〇

煙草 (ウラルニア産) 常品 毎磅 〇  
 錫塊 毎本 三  
 羊毛 毎磅 〇  
 柳モ物價ノ斯ノ如ク騰貴スルハ(當時至愚ナル人々ハ之  
 レヲ國ノ繁榮隆盛ト妄想セリ) 一千八百二十五年ノ秋ニ  
 至ル迄底止セサリシナリ投機者ノ外國へ輸出シタル巨  
 額ノ製造品モ其時ニ至ル迄輸入ニ平均セリ輸入固ヨリ  
 巨額ナリシト雖モ殆ント權衡ヲ保持セリ然リト雖モ殆  
 ント其七月頃ヨリ貿易其權衡ヲ失ヒ大ニ我國ニ不利ナ  
 ルニ至レリ時日ヲ徑過スルニ稅テ其災兆益々甚シキヨ  
 リ英國銀行(支那)人ハ初テ大ニ恐怖周章シ租稅院手形ノ  
 私買ヲナシ其紙幣ノ流通高ヲ減額セント勉メタリ然レ  
 モ災害ノ時機既ニ切迫シ之レヲ避ケント欲スルモ亦タ



能ハサルニ至レリ抑モ此ノ災害タルヤ紙幣政策上ニ未  
曾有ノ大險害ト云フモ決シテ過言ニアラズ蓋シ輸出入  
大ニ權衡ヲ失ヒ輸入品超過高最モ巨額ニシテ為換手形  
モ以テ之レヲ償フニ足ラス貿易ニ由テ為換手形ヲ引出  
ス人ハ忽チ之レヲ拂ヒ尽シ輸出品ニ向テ引出セシ手形  
モ皆ナ送り尽シ其殘差額ハ是非トモ唯々金塊ヲ送ルノ  
外如何トモスルコトナカリシヲ見ル何トナレハ銀塊ハ  
往時外國貸附ヲ為スニ當テ大半送り尽シ一千八百二十  
三年及ヒ二十四年ニ於テハ既ニ此ノ國ニ銀塊ノ蓄積ス  
ルモノナカリシカ故ナリ  
貿易其權衡ヲ失ヒシヨリ金塊ノ需用愈々緊急ヲ告グル  
ヲ以テ英國銀行大ニ恐怖シ可成丈急ニ其流通紙幣ヲ引  
去ラント勉メタリ而シテ之レカ為メ其所有ノ租稅院手

形ヲ市場ニ賣捌クコト夥多ナリシカ故ニ該手形ハ元來  
常ニ割増ヲ有スルモノナルニ却テ割引ヲ顯ハスニ至リ  
シヨリ稅ヲ納ムヘキ人々ハ皆該手形ヲ以テ之レヲ租稅  
院ニ收メタリ斯ノ如クニシテ英國銀行紙幣減少スルニ  
從テ手形ヲ割引スル人即チ銀行者ハ同シク驚キ恐レタ  
ル主顧ヨリノ一切ノアツコモデーシヨレヲ拒辞シタリ  
主顧モ同レシ驚キ恐レ此ニ於テ倫敦銀行者中ニ驚愕騷  
擾ヲ惹起シ終ニ地方銀行者及ヒ諸主顧ニ向テ以後割引  
ヲナサレカ故ニ各自ニ之レヲ處辨スベシト報知セリ  
而シテ地方銀行者ハ斯ク不意ニ後援ヲ失ヒ驚クコト大  
方ナラス忽チ諸商人ニ証券手形ノ割引ヲ拒辞スルニ至  
リ終ニ一千八百二十五年十二月英國及ヒ愛國ニ於テ驚  
駭騷擾破産零落ノ慘狀ヲ現出セリ余ハ今マ此ノ狂愚ノ



時世ニ於テ事ノコ、ニ至リレ所以ノ理由ヲ讀者ニ通曉  
 セシメンカ為ノ先ツ其數年間ノ銀塊輸出高計算書載  
 奉示シ次ニ金塊輸出高ノ計算表ヲ掲載スヘシ蓋シ言詞  
 ニテ説明スルヨリモ單ニ表ノ數字ニ據テ當時ニ發  
 シタル紙幣交換要請騷擾ノ原由及ヒ其實況ヲ確實ニ了  
 解スルヲ得スベシト信ス

銀輸出表

年 紀	銀 塊	外國銀貨	英國銀貨	合 計
一千八百二十二年	七、九八〇、三一五、二〇	六、五六五、五〇六	〇	一四、五四五、八二一
一千八百二十三年	一、五一、三三二、一五	一〇、〇五六、九二二	〇	二、五六八、二五八
一千八百二十四年	二、五二六、六八〇	六、〇六九、〇五六	〇	八、五八五、七三一
一千八百二十五年	一、二二三、七六二	四、一三四、四六二	一、一八、二七五	五、五六六、三九九

金輸出表

年 紀	金 塊	外國金貨	英國金貨	合 計
一千八百二十二年	五七、二八、〇七	九七、四七八	一四七、五五五	二八四、二五二
一千八百二十三年	八七、〇二二	一一、三五一	九八、〇〇〇	一九六、三七三
一千八百二十四年	二四一、八四〇	一、二八、四〇三	七六四、一〇九	一、一三四、三四三
一千八百二十五年	二九一、六六八	一、三六、六〇八	八五九、六四六	一、二七三、三三三

抑モ驚愕騷擾ノ初起タルヤ「 그리스トル」ノ「 ジョー子ス」氏  
 其端緒ヲ開キシモノ、如シ蓋シ「 ジョー子ス」氏ハ一千八  
 百二十五年ノ末ニ於テ「 그리스トル」ノ銀行者ニ其紙幣ヲ  
 金貨ニ交換センコトヲ要求セシニ銀行者之レヲ拒辭シ  
 金貨ノ代リニ英國銀行紙幣ヲ出セリ此ニ於テ「 ジョー子  
 ス」氏ハ直チニ法庭ニ訴テ呼出狀ヲ該銀行者ニ發シ之レ



ラレテ其保証人ヲ立テレメンコトヲ願ヒ終ニ自カラ其  
事件ヲ以テ下院ニ歎願セリ且ツ同氏ハ下院ノ訟庭ニ出  
テ其事件ヲ明證セントスルノ氣勢ナレハ其事實ヲ取消  
サント欲スルモ決シテ能ハス又々當局者モ敢テ其法律  
上ノ交換ヲ拒辞シタル銀行者ノ罪ヲ不問ニ置クヲ肯シ  
セサレハ其事實決シテ之レヲ隠蔽スル能ハサルナリ其  
事實ノ人民ノ耳聒ニ觸レタルヤ忽チ全社會ニ影響シ人  
々皆ナ安カラサルノ感覺ヲ起シ全國ヲ通シテ逐次金貨  
ヲ以テ紙幣ノ交換ヲ銀行ニ取り付ケニ来タルモノ陸續  
タルニ至レリ斯ノ如ク民心ニ疑惑ヲ醸生シタル情勢ハ  
忽チ非常ノ惡果ヲ惹起セリ乃チ第一ニ紙幣ノ交換ヲ停  
止シタルモノハ「ゴツドフレ」ウエン「トウ」ル「ス」會社ノ倫  
敦府銀行及ヒ其地方分局ナリ此時ヨリ人民ノ驚駭疑惑

益々甚シク恐怖騷擾愈々盛ニシテ終ニ其危極ニ達シ教  
十ノ倫敦府銀行破産シ一百有餘ノ地方銀行其交換ヲ停  
止シ抑モ紙幣其信ヲ世間ニ失スルノ甚シキヤ或ハ品物  
ト品物トノ交易ニアラサレハ物品ヲ購買シ能ハサルコ  
トアリ而シテ全國ヲ奉テ人心競々世議噴々トシテ疑惑  
百出國運コトニ盡キテ當時執政者ノ自カラ嘗テ言シ如  
ク國家ノ滅亡ハ二十四時間ノ内ニアラント思ハルカ  
如シ蓋シ此時ニ於テ英國銀行ハ其準備貨幣ヲ出シ尽シ  
既ニ破産スヘキ所ナリシニ非常無比ノ方畧ニ由テ其災  
ヲ免カレタリ嗚呼該銀行ノ此ノ危險ヲ免カレタル情勢  
タルヤ實ニ人力ニアラスシテ天帝猶ホ未タ此ノ國債政  
策ヲ減スルヲ欲セザルナリ天ノ之レヲ減スルヲ欲セザ  
ルモノハ何ソヤ曰ク天ノ國債政策ヲ疾ム深ニ之レヲ減



絶ニ帰セント欲ス故ニ速ニ減セス以テ其壞敗ヲ極ム壞  
敗極マラサレリ以テ減絶スルニ足ラサルナリ且ツ以テ  
非常ノ实例ヲ人間ニ置キ之レヲ千載ニ傳ヘテ訓戒トナ  
サント欲スルナリ  
當時英國銀行ノ内情ハ如何ナル情勢ナリシヤ余今マ其  
支配人ノ一人タルジェミア、エハルマン氏カー一千八百三十  
二年ノ秘密調査委員ニ報答レタル事實ヲ挙テ之レヲ明  
證スベシ

問

抑モ一千八百二十五年十二月ニ於テ英國銀行ノ準備金  
貨全ク尽キントセシコトアリシヤ

答

確乎トシテ一千八百二十五年ノ極末ニ於テ其事アリ

問

吾子ハ一千八百二十五年十二月中ニ英國銀行ノ所蔵セ  
シ金貨ノ最小額ヲ記憶スルカ

答

余今マ其精密ノ額教ヲ記憶セスト雖モ其極メテ些少大  
リレハ相違ナシ

問

吾子ハ嘗テ報告シタル一百三十萬封度ニ下リシ乎

答

造ニ下レリ

問

ハスキツソン氏ノ嘗テ言ヒシ所ニ據レハ同氏ハ當時執  
政官ノ一人タリシヲ以テ銀行ニ勸メテ若シ其準備金貨



全リ盡クルニ至ラハ其門戸ニ一紙ヲ貼出シ以テ銀行今  
マ其紙幣ヲ交換スヘキ金貨ヲ有セズ然レモ久シカラス  
ニテ金貨ヲ得テ再ヒ交換ヲ為スイアルベシト言ヘリト  
果シテ此ノ事アリシカ

答

然リ斯ノ如キ勸言アリシナリ

問

吾子ノ意見ニテハ斯ノ如キ危険ノ場合ニ於テ預シメ買  
易上財政上ノ信用ヲ維持スルノ方畧ヲ運テサズレテ此  
ノ如キ告知文ヲ銀行ノ門戸ニ貼出セハ其成果ハ果シテ  
如何ナルベシト誓考スル乎

答

余之レヲ誓考スル能ハス

問

英國銀行此ノ時ニ於テ一封印紙幣ヲ發行セリ但シ此ノ  
發行ハ其金貨ノ残額ヲ保持セシカ為メナリシ乎

答

實ニ然リ驚愕ニ堪ヘサルナリ且ツ其時ニ當テ余輩該紙  
幣ヲ發行スルヲ得タルハ蓋シ不可思議ニ之レヲ發行ス  
ルノ方便ヲ得シ非常ノ福運ニ因由セリ何トナレハ一封印  
紙幣ノ若干額ヲ藏メタル一箱ノ當テ忘却シタルモノ  
アリシカ此時幸ニ之レヲ発見シ以テ危急ヲ救フヲ得メ  
ルカ故ナリ

問

此危急ニ應センカ為メ該紙幣ヲ預備スルノ先見ハ當テ  
アラサリシ乎

大蔵省



答

決シテ斯ノ如キ先見ナシ余之レヲ誓言ス

問

右一封度紙幣ヲ發行シタルカ為メ銀行ヲシテ金貨ノ全  
尽ヲ免カレシメタリト吾子ハ誓考スル乎

答

余ノ考案ニ由レハ之レカ為メ此ノ國ノ信用ヲ救濟セリ  
ト思惟ス

抑モ當時英國銀行危險ノ情勢ヲ真字スルニハ恐ラク上  
ノ同答ニ如クモノアラサルベシト信ス嗚呼危ヒ哉此ノ  
時若シ一歩ヲ誤ラハ忽チ紙幣國債國債利息重荷半俸給  
年金セクレートトサトビス、モニト及ヒ租稅院券等一切數  
時間ヲ過キスレテ全ク滅亡ニ歸スヘキヤ疑ヲ容レサル

ナリ抑モ或論者ノ主持セシ所ニ據レハ當時所謂ル幸箱

ノ一封度紙幣ノ發行ヲ勸奨セシ人ハ後チ久シカラスシ

テ「ビルミングハム」郡ノ代議員ニ撰舉セラレタル「トーマ

ズ、アットウード」氏ナリト然リト雖モ是レ人力ニアラス

上帝其奧妙不可思議ノ目的ヲ以テ財政々策ヲ樵熟地獄

ノ上涯ニ臨ミ其煽々々々烈火ヲ觀ルニ至リ其火響ヲ聞

クニ至ラシタルニモ敢テ此ニ投落スルヲ欲セス尚ホ暫

ラク其生存ヲ接續セント企圖スルニ出ツルヤ確乎トシ

テ明カナリ夫レ此ノ災害ノ来リシヤ其災兆既ニ遠ク前

ニアリテ一朝偶然ト發生セシモノニアラス故ニ其罪ハ

全ク政府ニアリ蓋シ政府暗愚矇昧ニシテ一時間ヲモ尚

ホ将来ヲ先見スル能ハサルヨリ招キシ禍ニ外ナクス何

トナレハ今マ其證據ヲ奉クルトキハ(非常奇怪ニシテ信

非常奇怪ニシテ信



レ能ハサルカ如シト雖其事實確實ニシテ決シテ疑フ  
ヘカラサルナリ固ヨリ少ナカラサルカ故ナリ夫レ此ノ  
危険ノ時ニ當テ銀行支配人ハ大ニ恐怖シ政府ニ向テ再  
ヒ「ボット」氏ノ政畧ナル銀行紙幣交換禁止ノ權謀ノ實試  
セシコトヲ甚々勸言セシト雖モ政府ハ在苒トシテ之レ  
ニ應セス恰モ天神亡氣シタルモノト如ク銀行ノ政府ヨ  
リ得タル保助ハ唯タ「ハスキツ」氏ノ嘗テ戶外ニ告知  
文紙ヲ貼出スルニト云ヒシ指圖ニ外ナラサリシヲ見ル  
蓋シ此時ニ於テ百般ノ政務ヲ擔當セシ人ハ獨リ「ハスキツ  
ツ」氏ノミニシテ「其他」ニ人材ナキヲ知ルニ足ルナリ  
彼ノ淺識ナル「カニ」ニ「グ」ノ如キハ右災害ノ將ニ壞裂セ  
シトスル時ニ當テ悠々然ト遊艇ヲ「カムハ」ト「ラント」湖ニ  
浮ハ侍人詣諛ト觀語シ天下無事政路平易ト安心セシハ

復々愚ナラヌヤ「ロルド」リ「バブール」氏アルモ不學無術ニ  
シテ活動變通ノ術策ヲ運ラスノ材力ナク租税卿「ロビン」  
ソ「ン」氏ノ如キニ至テハ固ヨリ催促タル「蘭草」ノ徒事変ニ  
應スルノ識見ナキハ言ヲ待タス故ニ此時ニ當テ「ハスキツ  
ツ」氏ヲ除クノ外ハ政府ニ一人ノ政事家ナカリシヲ  
知ル此ヲ以テ成果ハ即テ余輩ノ上文ニ陳述セシカ如キ  
災害ヲ醸生スルニ至レリ  
右紙幣政策ノ失敗壞裂ヨリ惹起シタル非常ノ破産損亡  
ハ今マ之レヲ精密ニ測算スルニ由ナシト雖モ地方銀行  
ニ向テ發シタル身代限リ處分權委任狀ハ則チ左ノ如シ  
一千八百二十五年

一月  
九月

裁  
省



十月	五
十一月	三〇
十二月	三七
合計	八〇
一千八百二十六年	一〇
一千八百二十七年	一一
一千八百二十八年	一三
一千八百二十九年	一五
一千八百三十年	一
一千八百三十一年	一
一千八百三十二年	一
一千八百三十三年	一
一千八百三十四年	一
一千八百三十五年	一
一千八百三十六年	一
一千八百三十七年	一
一千八百三十八年	一
一千八百三十九年	一
一千八百四十年	一
合計	四三
大合計	八〇

倫敦府ノ銀行者ハ紙幣ヲ發行スルコトナカリシヲ以テ  
 交換停止モ地方ニ比スレハ大ニ少ナクシテ破産等ノ災  
 モ亦少ナシ  
 不學無術ナル執政者稍ヤク其驚駭狼狽ノ失神ヲ回復シ  
 タル時ニ當テヤ初テ紙幣交換ト小額紙幣ノ發行トハ決  
 シテ而立スヘカラサルノ理ヲ悟リ而シテ其誤謬ノ政策  
 ヲリシヲ知リ之レカ為メ来々スヘキ世論ノ非難ヲ避テ  
 人民ノ不平ヲ免カレシト欲シ其罪ヲ以テ地方銀行者ニ  
 歸セシメント企圖シタルハ愚ニシテ其心事卑劣ナリト  
 言ハサルヲ得ス蓋シ此誤謬ノ政策ハ銀行者敢テ自カテ  
 為レタルニアラス政府之レヲ稱讚怙憑シタルニ由ルナ  
 リ然ルニ當時ノ執政者ハ小額紙幣ヲ殘忍シコバツト氏  
 ノ言ヲ真似シ無償ノ爛布ト蔑視シ終ニ一千八百二十九



年ニ於テ永<sup>〇</sup>久之レテ廢棄スルノ條例ヲ議決セリ此條例  
ヲ議決スルニ於テモ尚ホ甚々前後相反スル矛盾ハ罪ア  
ルヲ免カレス何トナレハ該條例ヲ實試スルトキニ當テ  
「<sup>カ</sup>、<sup>ウ</sup>ラ<sup>ル</sup>タル、スコツト」氏（一千八百二十五年十二月ノ  
騷擾破裂ニ由テ其産ヲ破リシ人）首唱トナリテ蘇格蘭ノ  
諸大銀行大ニ此政畧ニ抵抗シタルカ為メ政府モ之レニ  
辟易シ英國ニ於テハ小額紙幣ヲ全ク廢棄シタルニ持リ  
蘇格蘭ニ於テ其流通ヲ持續スルコト、定メタリ此レ何  
レノ点ヨリ觀察スルモ有害無益ノ政畧ニ外ナラス此ノ  
故ハ他ナシ蘇格蘭ニ於ケル通貨ハ即チ英國通貨ノ一部  
分ナレハ其價格モ亦メ英國通貨ノ價格ニ從テ左右セラ  
レ、モノナルカ故ナリ然ルニ蘇格蘭ノ右不平者ハ皆ナ  
ク、昧ニヒテ斯ク不平ヲ鳴ラシテ右ノ政策ヲ<sup>哀</sup>求シタリ

ト雖<sup>ニ</sup>其實ハ其政策ノ利害ヲ知ラス唯々一<sup>ニ</sup>封度ニ封度紙  
幣ノ流通ヲ持續スルヲ以テ満足シ此政畧カ國內ニ及ホ  
スヘキ影響ニ至リテハ夢想タニセサリシカ如シ故ニ此  
ノ暗愚ナル特許ニテ蘇格蘭ノ各人一時ヲ満足シタルモ  
英國ノ小額紙幣引キ揚ケノ物價上ニ影響シタルハ西國ニ  
於テ少しモ異ナルコトナカリシヲ見ルナリ  
上ニ閱陳シタルモノハ即チ一千八百二十五年及七<sup>ニ</sup>十  
六年ニ於ケル所ノ記憶スヘキ紙幣恐慌ノ概畧ナリ抑モ  
此恐慌タルヤ真ニ當時ノ宰相「<sup>ロ</sup>、<sup>ド</sup>、<sup>リ</sup>バ<sup>プ</sup>ール」氏並ニ  
其他ノ執政者ヲヒテ鬱死セシタルニ至レリト云フモ可  
ナラン乎（假令ヒ右等ハ此恐慌後数月ヲ持續セリトイハ  
レ）政路ノ艱難愈々増進シ慘トシテ宰相ノ神心ヲ震蕩セ  
リ而シテ執政其死前ニ曰ク吾レ數年間公言ノ来ルコト



アレハ其封ヲ関クニ當テ常ニ悚然トシテ戰慄セリト而シテ終ニ一千八百二十七年中風ノ病ニ罹リ心身共ニ碎ケテ鬼籍ニ上レリ同氏ニ繼テ宰相トナリシモノハ則テ彼ノ不学無術ナル「カンニン」氏ナリシカホタ久シカラテシテ死セリ「大望材力」ニ應セシテ自カラ斃ルトハ是レ之レヲ謂フナリ「カンニン」氏ニ繼テ宰相トナリシモノハ當時「ロルド」リポント改稱シタル無能庸弱ノ「ロビンソン」氏是ナリ同氏政路ノ局面ニ當リシヤ其持論タル「合本銀行」ヲ以テ社員六人限リ舊地方銀行ニ代用スルノ政策ヲ建議シ終ニ其條例ヲ議決スルヲ得タリト雖モ後久シカラスレテ其政路ノ益々困難ニ切迫スルヲ見テ恐怖ヲ起シ身体健康ナラスレテ事務ニ堪ヘ難キノ遁辞ヲ作り困難危険ノ政路ヲ歩ムノ責任ヲ免カレント欲シテ其

職ヲ辞セリ

斯ノ如ク政路ノ困難ニ趨向スルヨリ宰相ノ職ハ恰モ「乞児」ヲ為スコト、同様ニ入タノ嫌惡スル所トナリシモノ、如ク然リ此ニ於テ「ウエルリントン」候終ニ其職ニ任シ政路艱難ノ局面ニ當レリ蓋シ同候ノ宰相ニ任セラレタルモノハ其功績アリシニ由ルニアラス當時ノ君主「ジョージ」四世ノ民黨ヲ嫌惡セシニ因由スルナリ抑モ當時社會中無智無識ノ人民ハ候ノ剛邁英果ナル性質ヲ視テ直ニ「遠」シ以来ハ人民大半ノ平生希望スル強盛堅牢ナル政府ヲ觀ルベシト妄想セシト雖モ如何セン政路ノ艱難ハ元帥ノ戰場ニ号令ヲ以テ軍卒ヲ指揮スルカ如ク容易ナルモノニアラス故ニ小額紙幣全廢滅ノ期近接スルニ從テ銀行者ハ其紙幣ノ流通高ヲ益々減縮シ從テ各種ノ物



品逐次ニ下落シ物價下落スルニ從テ人民難法困苦不  
平ハ愈々増進シ忍テ嚙々再々小額紙幣流通延期ノ  
要求スルニ至レリ蓋シ最モ喧シク此ノ論ヲ主持スルモ  
ノハ英國ノ北部ニアリ而シテ此ヲ主持スルモノ、理由  
ヲ觀察スルニ紙幣商ノ常ニ口吻ニ唱フル詭論ニ外ナラ  
スシテ其要旨トスル所ノモノハ紙幣ヲ通宝トシテ使用  
スレハ費用少ナクシテ極ク廉價ナリト云フ誤謬ノ理由  
ナリ抑モ此輩ノ所謂廉價通寶ナルモノハ如何ナル意  
義ナルヤ若シ廉價通寶ヲ以テ少シモ實價即チ之レヲ發  
行スルノ費用ヲ有セサル通寶ヲ謂フトナストキハ固ヨ  
リ自カラ背理タルヲ免カレス然レモ今マ此ノ言詞ヲ以  
テ些少ノ費用ニテ世間ノ使用ニ供セラル、通寶ノ謂フ  
モノトスルトキハ其誤謬此ヨリ甚シキ、カシ蓋シ此ノ

謬論ヲ主持スルノ人民ハ金塊ナルモノハ他ノ諸物品ト  
同シク有益ノ貿易ニ由テ容易ニ得ラル、モノナルヲ知  
ラサルニ坐スルナリ例之ハ今マ英國ノ綿布ヲ以テ大西  
洋ヲ航シテ米國ニ輸出シ之レヲ損失ナク賣捌クトキハ  
之レカ為メ積滞ルモノハ一部分金銀塊ニシテ一部分煙  
草ナルコトアラシ此ノ二品ヲ輸入スルコトニ於テ輸入  
高ノ利益ハ聊モ異ナルコトナシ持リ其間ニ差異スル所  
ノ点ハ他ナシ唯々煙草ハ逸遊者ノ玩物トナリ其次賣ス  
ル所トナルニ過ナサレモ金銀塊ノ如キハ有益ナル貿易  
上ニ於テ一個ノ主位ヲ占メシ商品タルノ利アリ且ツ之  
レヲ貨幣ニ鑄造スルトキハ貴重ナル目的ヲ達スレハ今  
マ此ノ差違アルニ外ナラサルナリ而シテ其貨幣ニ鑄造  
スルノ費用ハ貨幣ノニニラレト名クル歩割ヲ以テ



支辨シ其歩割ハ極テ些少ニシテ其價直ハ幾ント言フニ  
足ラサル程ノコトナリ又々貨幣ノ摩損用壞ノ如キモ實  
ニ聊カナリ「シヤコツ」氏其著ス所ノ貨幣論ニ記スル所  
ノ視ルニ一十八百十七年ヨリ一千八百二十六年ニ至ル  
九年間世間ニ流通シタル「ソベリン」金貨三百五十箇ニ於  
テ其重量ヲ流通ノ間ニ耗減シタルハ一百箇ニ付キ僅々  
四志六片ニ過キサリシト言ヘリ此ノ計算ニ據テ則算ス  
ルトキハ十年ノ間ニ摩耗スルコト每百箇ニ付キ五志ニ  
シテ即チ僅々毎年每百箇ニ付キ六片ナリ「ハーフ、ソベリ  
ン」金貨ノ摩損用壞ハ造幣局ノ試験ニ據ルニ十年間ニ  
每百ニ付キ五志七片ナリ「ソベリン」金貨ノ摩損ニ比スレ  
ハ聊カ多シ又々志貨ノ摩損ハ十年間ニ每百ニ付キ五  
分「シル」リングナリ「ハーフ、クローン」及ヒ「ソベリン」貨幣ノ

如キハ其摩損稍ヤ志貨ヨリ少ナシ夫レ斯レ迄モ事實ノ  
用カナルニ愚民金屬ノ通寶ヲ費用多キ通寶ナリト唱ヘ  
紙ノ通寶ヲ以テ國ニ費ス所ナシト妄想スルノ愚民アル  
ヲ見ル且ツ夫レ銀行ノ紙幣ヲ發行スルヤ若干ノ利益ア  
ルヲ以テナリ利益ナクシテ誰カ之レヲ發行スルモノア  
ランヤ銀行者ノ報告ニ據ルニ九ノ銀行者ノ利潤ハ諸役  
員ノ俸給諸借料證印稅免許稅及ヒ其他諸負債ノ償還等  
總テ諸雜費ヲ支辨スルノ外純益毎年ニ其資本金高ノ一  
割ニ分ノ多キニ達スト抑モ此ノ利益タルヤ到底皆ナ其  
紙幣ヲ使用スル公衆ノ拂フモノニ外ナラサルナリ右ノ  
愚民輩ト雖ハ豈ニ之レヲ知ラサルノ理アラランヤ  
所謂「廉價通貨」ノ如キ荒唐無稽ノ見解ヲ掲ケ出シ置々  
噴々政府ノ政畧ヲ非議シ喧シク不平不懣ヲ鳴ラスト雖



氏宰相「ウエルリントン」侯ハ原ト此ノ主義ヲ詳知セサル  
ヲ以テ利害得失ヲ察シ活動交通ノ政畧ヲ臨機ニ施スコ  
ト能ハサルハ言ヲ待タス其同僚「ピール」氏ノ如キハ「ウエ  
ルリントン」ニ比スレハ稍ヤ此主義ヲ知ルコト詳カナリ  
モ元来小額紙幣流通ヲ廢棄スルヲ主持セル人ナレハ  
此ノ時ニ於テモ益々其持論ヲ主張セサルヲ得サリシナ  
リ此ヲ以テ世論ノ如何ニ拘ハラヌ一千八百二十六年ノ  
小額紙幣廢棄條例ハ之ヲ変更改正スルコトナク強テ  
舉行セント企圖シタリ然リト雖モ久シカラスシテ人民  
ノ不憚ヲ抱キ不平ヲ鳴スコト愈々甚レク「ウエルリント  
ン」侯ノ執權政府稍ヤク其威權ヲ失ヒ衰弱ノ状ヲ顯スニ  
至レリ就中愛國ノ羅馬教會社ハ「オー、コンチル」氏之レカ  
袖領トナリ執權「ウエルリントン」ノ武名ハ高キニ恐怖セ

ス囂々其專横ヲ責メ噴々其政畧ヲ非議シカシテ愛爾蘭  
ニ於ケル軍隊ノ半ハ既ニ該會社ニ黨與シ以テ「カトリック」  
レント「此」レントハ右會社ヲ維持スル為メニ該國羅馬  
教徒ニ課収スル税ナリヲ供スルニ至レリ此ニ於テ宰相  
「ウエルリントン」侯大ニ恐怖失心シ禍乱ノコトニ逼マル  
ヲ知り已ヲ得スレテ同侯及ヒ其同僚「ピール」ノ初テ施シ  
タル政策ハ則チ一千八百二十九年羅馬教徒放釋案ノ議  
決是ナリ然レモ右向氏ハ終身羅馬教徒及其宗教ノ大敵  
レヲ免カレサリシナリ  
抑々此議案ノ議決タルヤ成功能ク多年維持シ來リシ此  
ノ政策ニ非常ノ攻撃ヲ與ヘリト雖モ一千八百二十九年  
小額紙幣ノ廢絶ハ該政策上ニ影響スルコト猶ホ一層甚  
太シキヲ知ル何トナレハ小額紙幣ノ廢絶ハ則チ取モ直



サス民。黨國權ヲ執リ重要ナル議院改正議案ヲ議決シタ  
ルコトノ大原因ナルカ故ナリ  
一千八百二十九年五月ニ於テ一封度及ヒニ封度ノ地方  
銀行紙幣ハ最早世間ニ流通スルコトナク適々殘額ノ少  
シ流通スルモノアルモ又シカラスシテ各々其發行銀行  
ニ引揚止ラレタリ然レモ金銀貨ハ該紙幣ニ代リテ十分  
ニ流通スルニ至ラス其故何トナレハ銀行者可成丈多ノ  
紙幣ヲ發行スルコトアルモ貨幣ヲ出タスコトニ至リテ  
ハ可成丈少ナクスルカ故ナリ此ニ於テ小額正貨ノ流通  
高極メテ少ナクシテ零賣上ニ物價ヲ維持保存スルニ足  
ラサルヨリ從テ卸賣上ノ物價又々一層下落シ到底通貨  
金流通高ノ減額ヲ覺ヘ世間ノ金融閉塞セリ抑モ通貨減  
少ノ影響ヲ蒙ルモノハ農夫ヨリ甚シキナシ蓋シ之

レカ為メ穀物價直ヲ下落スルコト最モ甚キヲ見ル一  
千八百二十九年一千八百三十年及ヒ一千八百三十一年  
ノ收穫ハ決シテ豊収ニアラスト雖ヒ一千八百三十一年一  
月ニ於ケル小麦ノ平均價直ハ僅々五十一志ニ過トス一  
千八百三十一年ノ如キハ其收穫ノ飢歉ナル明カナリト  
雖モ其七月ニ於ケル小麦ノ價直ハ僅カ六十四志ニシテ  
其時ヨリ又シカラスシテ又々下落シテ殆ント五十志ト  
ナレリ  
小額紙幣ヲ廢棄シタルヨリ斯ノ如キ情勢ヲ現出シ之レ  
カ為メ農夫ハ難渋ニ堪ヘカタク終ニ一千八百三十年已  
ムヲ得スレテ勞力者ノ給金ヲ減少スルノ刺策ヲ施セリ  
此ニ於テ勞力者又々飢餓ニ至ルヲ以テ忽チ暴舉ヲ起  
シ百方農夫ニ抵抗シ全國ヲ舉テ愛爾蘭ノ外他ニ其例ヲ



見サレノ慘状ヲ現出スルニ至レリ然レモ英國ニ於テハ  
幸ニ愛爾蘭ニ於ケルカ如ク勞力者非舉農夫ヲ田野ニ救  
害スルカ如キ甚シキニ至ラス蓋シ愛爾蘭ニ於テハ貧民  
救助法ノ活路ナキカ故ニ貧民其借地ヲ取上ケラレタル  
時ニ當テヤ忽テ飢餓ニ逼リ終ニ農民ノ間ニ流血淋漓ノ  
慘状ヲ顯ハセリ英國ニ於テハ斯ノ如キ甚シキニ至ラス  
ト雖モ勞力者其難状ノ餘リ殆ント愛爾蘭ニ齊シキ暴舉  
ヲ行ナハリ即テ農家ニ放火スルコト是ナリ此放火タル  
ヤ最モ南部諸郡一般ニ甚シクシテ北部ハ「リンコルンサ  
ヤ」郡ニ及ハリ實ニ國內騷擾錯乱恰モ鼎ノ沸クカ如ク  
今モ國乱ヲ壞裂セントスル情勢ナリシガ幸ニ「ジョージ」四  
世死シ一十八百三十年執權ヲ改撰シ「ウエリントン」候  
ノ執權ヲ覆シ民黨政權ヲ執リ制度ヲ改革シ苛法刻令ヲ

廢棄スヘキ希望ヲ人民ニ與ヘタルヨリ一守人民ノ怒氣  
ヲ鎮靜スルヲ得タリ  
今マ此章ノ局ヲ結フニ當リ讀者ヲシテ一千八百十九年  
ヨリ一千八百二十九年小額紙幣廢絶ノ時ニ至ル迄ニ紙  
幣ノ引揚交換消却ノ次第ヲ鳥觀景トナシ讀者ニ一目瞭  
然タラシメンカ為メ右ノ諸年間其商人ノ請取金比較表  
ヲ左ニ掲載ス是レ即テ「コヘツ」ト氏著ス所ノ「殖民論」ヨリ  
引用スルモノナリ蓋シ此ノ比較表ヲ觀レハ喋々言詞ヲ  
以テ説明スルヨリモ却テ明了確實ニ通貨ノ額數及ヒ價  
直ノ動搖變化ヨリ物價上ニ及ホセシ直接ノ影響ヲ理會  
シ且ツ該時限ノ末年ニ至リ「ピール」議案ヲ十分ニ舉行セ  
シヤ忽テ物價下落シ歲費額減少シ從テ各事業ノ利潤減  
少シタルコトノ神速ナリレヲ確知スルヲ得ヘキナリ



余輩ハ今マ次章ニ進行シ民黨及ヒ其改正議院ノ財政策  
 ヲ探偵考究スヘシ而シテ此ノ政黨モ亦数年ヲ出スレテ  
 王黨ノ禍跡ヲ踐ミ一千八百三十年ニ「ウエリントン」セ  
 「ル」及ヒ王黨力其執權ヲ失ヒシト同シ原由ニ因テ其政  
 略ヲ失敗セシヲ觀ルヘシ抑モ王黨ハ「ヒール」議案ノ惡果  
 ヲ脱セント欲スルモ之レカ為メ直接ノ政策ヲ舉行スル  
 ヲ好マサリシヲ以テ種々ノ減輕法ヲ用ヒタレモ此ト殆ン  
 敗シ終ニ自カラ斃ルニ到レリ民黨ノ如キモ此ト殆ン  
 ト同轍ノ情勢ニテ久シカラスレテ斃ルニ至レリ是レ  
 次章ニ於テ余輩ノ関陳スル所ナリ

一千八百十九年ヨリ一千八百二十八年ニ至ルマテ

小額紙幣引揚消却表

一千八百十九年 一千八百二十年 一千八百二十一年 一千八百二十二年 一千八百二十三年 一千八百二十四年 一千八百二十五年 一千八百二十六年 一千八百二十七年 一千八百二十八年

十二月	三九二九二九	二九二九	六二八二	九一八二	二四二八	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	六二三二	二〇五九	封度志片
十一月	三二五二	二六九七	六八〇三	一五七二	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	六二三二	二〇五九	封度志片
十月	二四二八	一八〇三	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	六二三二	封度志片
九月	一五七二	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	六二三二	封度志片
八月	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	封度志片
七月	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	封度志片
六月	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	封度志片
五月	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	封度志片
四月	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二四三二	五三九六	八六三三	一八〇五	二八八八	六二三二	封度志片
三月	二八八八	六二三二	一〇五九	二〇五九	二八八八	六二三二	一〇五九	二〇五九	二八八八	六二三二	一〇五九	封度志片
二月	六二三二	一〇五九	二〇五九	二八八八	六二三二	一〇五九	二〇五九	二八八八	六二三二	一〇五九	二〇五九	封度志片
一月	一〇五九	二〇五九	二八八八	六二三二	一〇五九	二〇五九	二八八八	六二三二	一〇五九	二〇五九	二八八八	封度志片

大歳



合計 一六三 七〇二六九 六八二八五 二二八三 一六五三四 二二 二〇六〇 二九三四 一九七三 二一〇四 七六

第十三章終



